

# 市内遺跡発掘調査

XV

2022

埼玉県富士見市教育委員会

# 市内遺跡発掘調査

XV

2022

埼玉県富士見市教育委員会



# あ い さ つ

富士見市教育委員会

教育長 山 口 武 士

埼玉県富士見市は、都心から約30km、武蔵野台地の北東縁に位置し、市域の西部には武蔵野台地、東部には荒川低地が広がっています。台地から低地に向かって流れる河川と台地際からの湧水により、複雑な地形が造り出される一方で、緑豊かな自然環境が広がっています。この恵まれた自然環境の中、武蔵野台地の縁辺部を中心に、先史時代から続く人々の暮らした痕跡がよく残されており、市内では旧石器時代から近世に至るまでの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が59か所確認されています。この中には、縄文時代前期の環状集落「国指定史跡 水子貝塚」や、縄文時代早期末から前期にかけての遺構・遺物が顕著な「打越遺跡」、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての大規模環濠集落「南通遺跡」、中世武士の館「県指定旧跡 難波田氏館跡」など著名な遺跡が存在します。

富士見市教育委員会では、これらの埋蔵文化財包蔵地の保存や、発掘調査で発見された郷土の貴重な歴史資料の活用を図るため、「国指定史跡 水子貝塚」、「県指定旧跡 難波田氏館跡」はそれぞれ「水子貝塚公園・水子貝塚資料館」、「難波田城公園・難波田城資料館」として整備を行い、歴史公園としてまた学習の場として、市民のみならず多くの方々にご活用いただいております。

その一方では、まだ市内に残されている埋蔵文化財を保護すべく、市内遺跡発掘調査事業として、埋蔵文化財包蔵地内の宅地造成・住宅建設等の開発に先立ち、事前に試掘調査・発掘調査を実施し、埋蔵文化財の記録保存等の措置を行ってまいりました。市内の埋蔵文化財包蔵地は、そのほとんどが市街化区域である台地上に分布しており、開発行為の受けやすい状況下にあります。令和3年度の市内遺跡発掘調査事業では、試掘調査及び発掘調査等が35件を数え、郷土の歴史を知る上で貴重な遺構・遺物が検出され、成果をおさめることができました。

ここに本年度の事業成果の一部を報告書として刊行するにあたり、ご指導ご協力を賜りました文化庁、埼玉県教育局文化資源課並びに地元関係各位に厚く御礼申し上げます。本書が埋蔵文化財に対する理解と知識を深めると共に、富士見市の歴史を学ぶ上で参考になれば幸いに存じます。



## 例

1. 本書は、令和3年度及び過去に実施した埼玉県富士見市内に所在する遺跡群の発掘調査報告書である。

発掘調査（試掘調査）は富士見市教育委員会が主体となり、令和3年4月1日より令和4年3月31日まで実施した。調査にかかる経費の一部については、国庫及び県費補助金の交付を受けている。

2. 調査組織は以下のとおりである。

調査主体者 富士見市教育委員会

教 育 長 山口武士

教 育 部 長 林みどり

生涯学習課長 深迫国宏

生涯学習副課長 堀 善之

文化財保護担当 堀善之・佐藤一也・大野朝日

調査担当者 佐藤一也・大野朝日

3. 本書の編集は富士見市教育委員会が行い、佐藤が担当した。

4. 本書の遺構及び遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 図版の縮尺は主に次のとおりである。

遺構配置図	1/300
住居跡・溝跡・土坑	1/60
炉穴・集石・貯蔵穴	1/30
カマド・炉跡	1/30
土器実測図	1/4
陶磁器実測図	1/3
土器拓影図・石器及び石製品実測図	1/3
土製品実測図	1/3
鉄製品実測図	1/3

(2) 遺構実測図の水糸高は海拔高を示す。

(3) 柱穴内の数字は床面からの深度を示す。（単位cm）

(4) 住居跡名・炉穴名・集石名・土坑名・溝跡名は、時代ごとに遺跡内の通し番号になっている。

(5) 遺構名の略記号は以下の内容を示す。

FP = 炉穴、H = 奈良・平安時代の住居跡、  
HD = 土坑、JD = 繩文時代の土坑、JS = 繩文時代の集石、M = 溝跡、Y = 弥生時代の住居跡

## 言

5. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して富士見市文化財整理室に保管してある。

6. 発掘調査及び整理を通じて下記の諸機関・諸氏に御指導・御協力を賜った。（敬称略）

越前谷理・大久保淳・大久保聰・岡崎裕子

尾形則敏・岡野賢人・木村 藍・隈本健介

齊藤麻那・菅沼慎太郎・高崎直成・徳留彰紀

中村 愛・鍋島直久・早坂廣人・柳井章宏

柳沢健司・和田晋治

文化庁・埼玉県教育局文化資源課

富士見市立水子貝塚資料館

富士見市立難波田城資料館

7. 調査参加者

(調査員)

櫻井英史・坪田幹男

(調査協力員)

荒居里枝・飯田久子・石上 武・磯川 左

岩瀬直美・海汐亮太・大川早苗・逢坂英明

荻山浩之・小口 広・加藤 守・菊地憲明

鈴木美恵子・関谷由枝・萩元哲雄・長谷川雅之

飛田和照美・深谷和江・福田隆司・藤井喜恵子

盛政清美・山口好文・吉田信江

(整理協力員)

和泉千珠子・岩崎朝子・今野孝之・白石尚美

鈴木知恵子・萩元智子・山中陽子・結城路子



# 目 次

あいさつ  
例 言  
目 次  
図表目次  
写真図版目次

<b>第1章 令和3年度の調査成果の概要</b>	1
第1節 遺跡の立地と環境	1
第2節 発掘調査に至る経緯	2
<b>第2章 氷川前遺跡第66地点</b>	5
第1節 遺跡の概要	5
第2節 縄文時代の遺構と遺物	6
第3節 弥生時代の遺構と遺物	8
第4節 古墳時代の遺構と遺物	20
第5節 平安時代の遺構と遺物	22
第6節 その他の遺構と遺物	24
<b>第3章 谷津遺跡第42地点</b>	28
第1節 遺跡の概要	28
第2節 縄文時代の遺構と遺物	29
第3節 古代の遺構と遺物	33
<b>第4章 羽沢前遺跡第6地点</b>	39
第1節 遺跡の概要	39
第2節 縄文時代の遺構と遺物	39
<b>第5章 神明遺跡第29地点</b>	40
第1節 遺跡の概要	40
第2節 縄文時代の遺構と遺物	40
<b>第6章 山室遺跡第24地点</b>	42
第1節 遺跡の概要	42
第2節 縄文時代の遺構と遺物	42

写真図版  
報告書抄録

# 図 表 目 次

第1図	富士見市内遺跡分布図	
第2図	氷川前遺跡第66地点	5
第3図	氷川前遺跡第66地点遺構配置図	6
第4図	第73・74号土坑及び出土遺物 (73JD・74JD)	7
第5図	第29号住居跡及び出土遺物 (29 Y)	9
第6図	第30号住居跡及び出土遺物 (30 Y)	10
第7図	第31号住居跡 (31 Y)	11
第8図	第32 A号住居跡 (32 Y)	12
第9図	第32 B号住居跡及び出土遺物 (32 Y)	13
第10図	第33号住居跡及び出土遺物 (33 Y)	14
第11図	第34号住居跡出土遺物 (34 Y)	15
第12図	第34号住居跡 (34 Y)	16
第13図	第35号住居跡及び出土遺物 (35 Y)	17
第14図	第36号住居跡 (36 Y)	18
第15図	第36号住居跡及び出土遺物 (36 Y)	19
第16図	第58・63号土坑出土遺物 (58HD・63HD)	20
第17図	第57～63号土坑 (57～63HD)	21
第18図	第48号住居跡及び出土遺物 (48 H)	23
第19図	第49号住居跡及び出土遺物 (49 H)	23
第20図	第42・43号溝跡 (42M・43M)	25
第21図	第43号溝跡出土石器・石製品 (43M)	26
第22図	第43号溝跡出土陶磁器 (43M)	27
第23図	谷津遺跡第42地点遺構配置図	28
第24図	谷津遺跡第42地点	29
第25図	第11号住居跡 (11 J)	30
第26図	第12号住居跡 (12 J)	31
第27図	第11・12号住居跡出土遺物 (11J・12J)	31
第28図	第13～15号炉穴、第13号集石、第32・33号土坑 (13～15FP、13JS、32JD・33JD)	33
第29図	第41号住居跡1 (41 H)	34
第30図	第41号住居跡2 (41 H)	35
第31図	第41・42号住居跡出土遺物 (41H・42H)	36
第32図	第42号住居跡 (42 H)	37
第33図	遺構外出土遺物	38
第34図	羽沢前遺跡第6地点	39
第35図	羽沢前遺跡第6地点遺構配置図 及び第1号炉穴 (1 FP)	39
第36図	神明遺跡第29地点	40
第37図	神明遺跡第29地点遺構配置図 及び第1号炉穴 (1 FP)	41
第38図	山室遺跡第24地点	42
第39図	山室遺跡第24地点遺構配置図 及び第5号炉穴 (5 FP)	42
第1表	令和3年度調査地点一覧 1	2
第2表	令和3年度調査地点一覧 2	3
第3表	令和3年度調査地点一覧 3	4
第4表	第73・74号土坑 (73JD・74JD) 出土土器観察表	8
第5表	第29号住居跡 (29 Y) 出土土器観察表	10
第6表	第30号住居跡 (30 Y) 出土土器観察表	10
第7表	第32 B号住居跡 (32 Y) 出土土器観察表	13
第8表	第33号住居跡 (33 Y) 出土土器観察表	14
第9表	第34号住居跡 (34 Y) 出土土器観察表	15
第10表	第34号住居跡 (34 Y) 出土土製品観察表	15
第11表	第35号住居跡 (35 Y) 出土土器観察表	17
第12表	第58号土坑 (58HD) 出土土器観察表	22
第13表	第63号土坑 (63HD) 出土土器観察表	22
第14表	第48号住居跡 (48 H) 出土土器観察表	22
第15表	第49号住居跡 (49 H) 出土土器観察表	22
第16表	第43号溝跡 (43M) 出土石器・石製品観察表	26
第17表	第43溝跡 (43M) 出土陶磁器観察表	27
第18表	第11号住居跡 (11 J) 出土土器観察表	29
第19表	第12号住居跡 (12 J) 出土土器観察表	31
第20表	第41号住居跡 (41 H) 出土土器観察表	35
第21表	第41号住居跡 (41 H) 出土鉄製品観察表	35
第22表	第42号住居跡 (42 H) 出土土器観察表	37
第23表	遺構外出土土器観察表	38
第24表	遺構外出土石器観察表	38

# 写真図版目次

## 写真図版1

- 〔1〕氷川前遺跡第66地点試掘調査風景
- 〔2〕第74号土坑完掘状況 (74JD)
- 〔3〕第29号住居跡完掘状況 (29 Y)
- 〔4〕第30号住居跡完掘状況 (30 Y)
- 〔5〕第33号住居跡遺物出土状況 (33 Y)
- 〔6〕第33号住居跡完掘状況 (33 Y)
- 〔7〕第34号住居跡遺物出土状況 (34 Y)
- 〔8〕第34号住居跡火皿式炉跡検出状況 (34 Y)

## 写真図版2

- 〔1〕第34号住居跡完掘状況 (34 Y)
- 〔2〕第36号住居跡遺物出土状況 (36 Y)
- 〔3〕第63号土坑遺物出土状況1 (63HD)
- 〔4〕第63号土坑遺物出土状況2 (63HD)
- 〔5〕第42・43号溝跡1号集石検出状況 (42M・43M)
- 〔6〕第42・43号溝跡1号集石堆積状況 (42M・43M)
- 〔7〕第42・43号溝跡2号集石検出状況 (42M・43M)
- 〔8〕氷川前遺跡第66地点調査終了状況

## 写真図版3

- 〔1〕第34号住居跡出土遺物 (34 Y) (No.2)
- 〔2〕第34号住居跡出土遺物 (34 Y) (No.1)
- 〔3〕第34号住居跡出土遺物 (34 Y) (No.3)
- 〔4〕第34号住居跡出土遺物 (34 Y) (No.6)
- 〔5〕第58号土坑出土遺物 (58HD) (No.1)
- 〔6〕第58号土坑出土遺物 (58HD) (No.2)
- 〔7〕第63号土坑出土遺物 (63HD) (No.3)
- 〔8〕第63号土坑出土遺物 (63HD) (No.6)

## 写真図版4

- 〔1〕第63号土坑出土遺物 (63HD) (No.7)
- 〔2〕第48号住居跡出土遺物 (48 H) (No.1)
- 〔3〕第43号溝跡出土遺物 (43M) (No.6)
- 〔4〕第43号溝跡出土遺物 (43M) (No.10・No.1)
- 〔5〕第43号溝跡出土遺物 (43M) (No.2・No.3)
- 〔6〕第43号溝跡出土遺物 (43M) (No.11・No.12・No.7)
- 〔7〕第43号溝跡出土遺物 (表) (43M) (No.9・No.8)
- 〔8〕第43号溝跡出土遺物 (裏) (43M) (No.9・No.8)

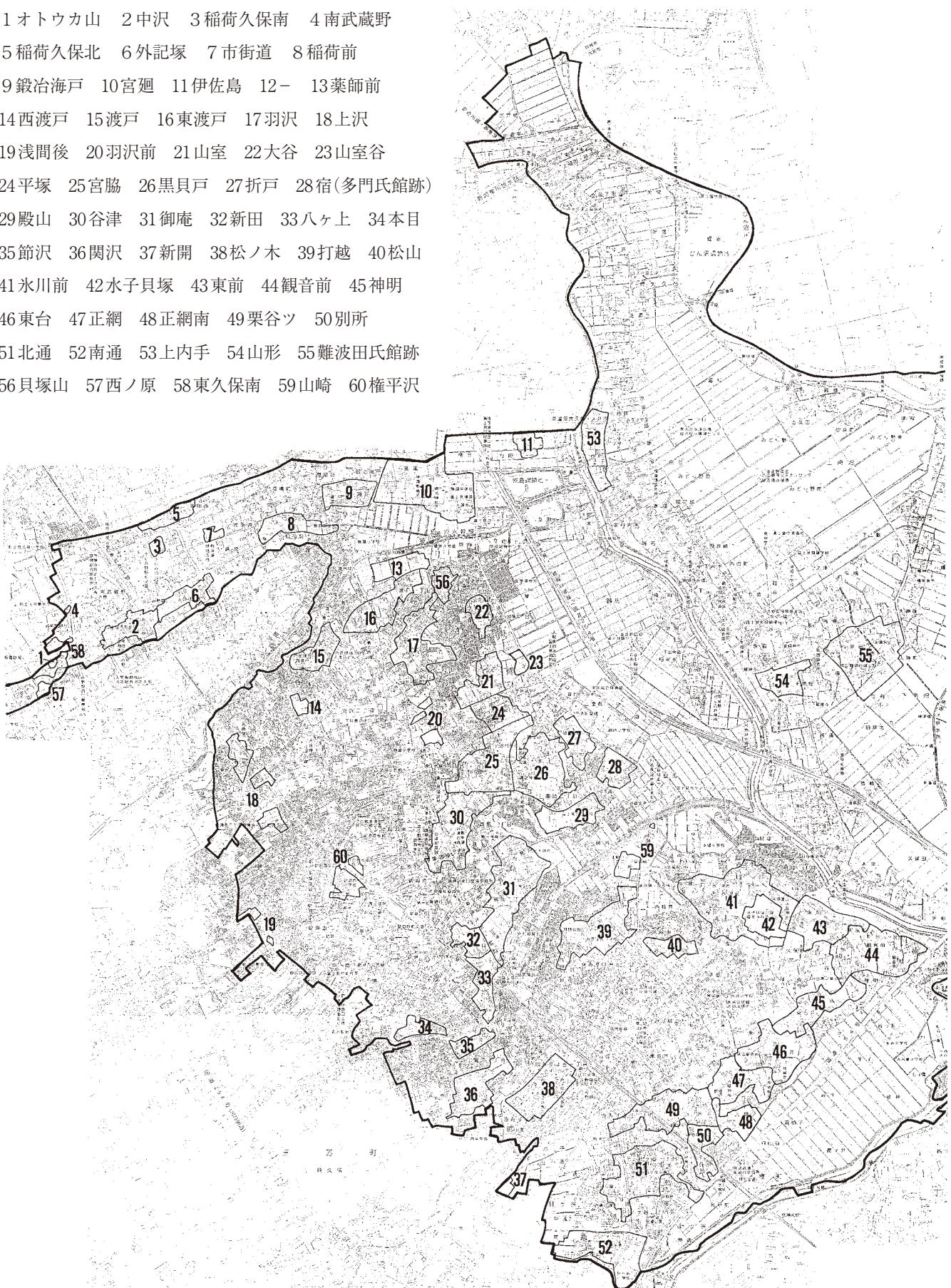
## 写真図版5

- 〔1〕第11号住居跡遺物出土状況 (11 J)
- 〔2〕第11号住居跡完掘状況 (11 J)
- 〔3〕第12号住居跡完掘状況 (12 J)
- 〔4〕第13号集石土層断面状況 (13JS)
- 〔5〕第13号集石検出状況 (13JS)
- 〔6〕第41号住居跡遺物出土状況 (41 H)
- 〔7〕第41号住居跡完掘状況 (41 H)
- 〔8〕谷津遺跡第42地点調査終了状況

## 写真図版6

- 〔1〕谷津遺跡第42地点  
第11・12号住居跡出土遺物 (11J・12J)
- 〔2〕谷津遺跡第42地点  
第41号住居跡出土遺物 (41 H) (No.2)
- 〔3〕谷津遺跡第42地点  
第41号住居跡出土遺物 (41 H) (No.3)
- 〔4〕谷津遺跡第42地点  
第41号住居跡出土遺物 (41 H) (No.7)
- 〔5〕谷津遺跡第42地点  
第41号住居跡出土遺物 (41 H) (No.10)
- 〔6〕羽沢前遺跡第6地点検出の炉穴完掘状況 (1 FP)
- 〔7〕神明遺跡第29地点検出の炉穴完掘状況 (1 FP)
- 〔8〕山室遺跡第24地点検出の炉穴完掘状況 (5 FP)

1 オトウカ山 2 中沢 3 稲荷久保南 4 南武藏野  
 5 稲荷久保北 6 外記塚 7 市街道 8 稲荷前  
 9 鍛冶海戸 10 宮廻 11 伊佐島 12- 13 薬師前  
 14 西渡戸 15 渡戸 16 東渡戸 17 羽沢 18 上沢  
 19 浅間後 20 羽沢前 21 山室 22 大谷 23 山室谷  
 24 平塚 25 宮脇 26 黒貝戸 27 折戸 28 宿(多門氏館跡)  
 29 殿山 30 谷津 31 御庵 32 新田 33 八ヶ上 34 本目  
 35 節沢 36 関沢 37 新開 38 松ノ木 39 打越 40 松山  
 41 氷川前 42 水子貝塚 43 東前 44 観音前 45 神明  
 46 東台 47 正綱 48 正綱南 49 栗谷ツ 50 別所  
 51 北通 52 南通 53 上内手 54 山形 55 難波田氏館跡  
 56 貝塚山 57 西ノ原 58 東久保南 59 山崎 60 権平沢



第1図 富士見市内遺跡分布図 (1/30000)

# 第1章 令和3年度の調査成果の概要

## 第1節 遺跡の立地と環境

埼玉県富士見市は、都心から30km圏内の県域南部に位置する。昭和40年代まで武蔵野の面影の残る近郊農村であったが、その後は東武東上線沿線のベッドタウンとして姿を変えてきた。現在の人口は11万人を数える。

富士見市は、東に荒川を挟んだ対岸にさいたま市、南に柳瀬川を挟んだ対岸に志木市、北にふじみ野市、西に三芳町とそれぞれ接している。市域中央部には新河岸川が南北に貫流し、荒川と新河岸川により形成された標高約6mの沖積地である荒川低地が市域東半部に広がる。市域西半部は標高約20mの武蔵野台地の北東縁にあたり、新河岸川に注ぐ小河川の浸食や湧水により多くの支谷が形成され、複雑な地形を呈している。

市内で確認される埋蔵文化財包蔵地は59か所を数え、その多くは台地縁辺部に集中し、旧石器時代から近世にわたる遺跡が確認されている。一方荒川低地では、新河岸川沿いに形成された自然堤防上に、弥生時代・古墳時代・戦国時代・江戸時代の遺跡が確認されるが、その数は少ない。

市内の遺跡を時代別に概観すると、旧石器時代では、中沢遺跡、外記塚遺跡などの遺跡で礫群が出土している。谷津遺跡ではX層中にナイフ形石器と石刃がデポの状況で確認され、中沢遺跡ではX層中から礫器が出土している。また、栗谷ツ遺跡ではVI層中からナイフ形石器群が出土しており、打越遺跡では細石刃群が僅かに出土している。

縄文時代になると、宮廻遺跡などで草創期の有舌尖頭器等の石器が採取され、八ヶ上遺跡では隆起線文土器や爪形文土器が出土している。早期末から前期にかけては縄文海進の影響により、市域東部の荒川低地部に海水が進入して古入間湾が形成され、それに伴い武蔵野台地縁辺部に貝塚を伴う集落が形成されている。栗谷ツ遺跡で早期前葉の夏島式期、稻荷台式期の竪穴住居跡が検出されている。早期後半になると、打越遺跡を中心に多くの遺跡で竪穴住居跡や炉跡が検出され

るようになる。前期になると、集落の規模も大きくなり、貝塚を伴う竪穴住居跡が検出されるようになる。関山式期には打越遺跡を中心に中沢遺跡や殿山遺跡などで、黒浜式期には国指定史跡の水子貝塚を中心に宮廻遺跡、宮脇遺跡などで、竪穴住居跡などの遺構が検出されている。また、諸磯式期には宮廻遺跡や水子貝塚などで貝塚を伴わない竪穴住居跡が検出されている。中期の勝坂式期から加曾利E式期、後期初頭の称名寺式期にかけては、中沢遺跡や外記塚遺跡、稻荷前遺跡などの多くの遺跡で竪穴住居跡などの遺構が検出され、特に中沢遺跡や羽沢遺跡、松ノ木遺跡は環状集落の様相を呈していることが明らかとなっている。後期初頭以降は本目遺跡や打越遺跡、正網遺跡で遺構が検出されるが、遺跡数は激減する。

弥生時代から古墳時代初頭にかけては、市域南半部から柳瀬川流域に集落が集中し、中期の宮ノ台式期に南通遺跡で竪穴住居跡が、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけては、觀音前遺跡や北通遺跡などで竪穴住居跡が多数検出されている。また、新河岸川流域の自然堤防上である上内手遺跡や山形遺跡などでも竪穴住居跡が確認され、低地でも集落が形成されたことが明らかとなっている。ほかに、南通遺跡では検出された環濠と竪穴住居跡310軒から市内有数の大規模集落であることが確認され、氷川前遺跡や東台遺跡などで方形周溝墓が検出されている。北通遺跡では、検出された方形周溝墓の主体部から鉄劍やガラス玉が出土し、市指定文化財となっている。

古墳時代では、後期に宮脇遺跡や觀音前遺跡などの遺跡で竪穴住居跡が検出されている。古墳はかつて貝塚山遺跡に存在したが、現在は削平されている。

奈良時代では中沢遺跡や黒貝戸遺跡など、平安時代では宮廻遺跡や東台遺跡などの多くの遺跡で、それぞれ竪穴住居跡が検出されている。また、氷川前遺跡や正網遺跡で掘立柱建物跡群、栗谷ツ遺跡で須恵器窯跡、本目遺跡で土器焼成土坑、宮脇遺跡や氷川前遺跡、東台遺跡で工房跡が検出されている。特に、宮脇遺跡の鋳造工房跡からは、多量の鉄滓や銅滓とともに、銅製仏具の鋳造に使用された鋳型が出土している。

中世では、城館跡である県指定旧跡の難波田氏館跡や宿遺跡（多門氏館跡）、殿山遺跡などで構造が検出されている。難波田氏館跡では、郭跡や堀跡のほかに建物跡や橋脚跡などが検出され、宿遺跡では堀跡や土塁跡、建物跡、墓坑などが検出されている。なお、柳瀬川流域の崖線付近には、鎌倉道（羽根倉道）が通っている。

## 第2節 発掘調査に至る経緯

市内の遺跡は、多くが市域西半部の武蔵野台地縁辺部に集中し、急激な市街化に伴う開発が行われてきたところである。

開発は主に住宅建設等の面積1,000m<sup>2</sup>以下の小規模な開発が大半を占め、埋蔵文化財に対して多大な影響

を与えてきている。このような開発による埋蔵文化財の蚕食的消滅を防ぐため、小規模な開発に対して迅速な対応を行い、最低限の記録保存の措置を講じる必要があった。

そのため、富士見市教育委員会では、埋蔵文化財包蔵地内での開発行為に先立ち、試掘調査・発掘調査を行う体制を整えるとともに、実際に調査を実施し、記録保存等の措置を講じてきている。なお、財政的には、昭和52年度から国庫・県費補助金の交付を受け、昭和61年度から発掘調査費用の一部を市負担として実施している。

市内の水子地域では平成22年に市街化区域に再編入されたため開発行為が増加しており、近年は水子地域に所在する遺跡で調査の件数が増加している状況である。

No	遺跡・地点	所在地	面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	調査期間	上段：試掘調査 下段：発掘調査	特記事項	北緯 東経
1	山室遺跡 第26地点	山室2丁目 1407、1410	1977.21	宅地造成		4月12日～15日	遺構なし 【慎重工事】	35° 85' 77" 139° 54' 37"
2	関沢遺跡 第42地点	関沢3丁目 4505-89、4525-3	84.89	個人専用 住宅		4月19日	遺構なし 【慎重工事】	35° 83' 59" 139° 54' 22"
3	神明遺跡 第36地点	大字水子字石井 4435-1、4436-1	1495.29	分譲住宅 宅地造成		4月20日～26日 4月27日	中近世溝跡1条、 粘土貼土坑1基 【発掘調査】	35° 84' 05" 139° 56' 34"
4	羽沢遺跡 第88地点	渡戸1丁目 769番7	4	携帯無線 基地局		4月26日	遺構なし 【工事立会】	35° 86' 07" 139° 54' 08"
5	東前遺跡 第25地点 観音前遺跡 第64地点	大字水子字町谷前 1849、1850、 1852-1の一部、 1853-1の一部、 1856-3 大字水子字山下 2849-1	1702.12	宅地造成 分譲住宅 道路		5月10日～13日	遺構なし 【慎重工事】	35° 84' 49" 139° 56' 75"
6	観音前遺跡 第61地点	大字水子 1846番1、1855番1、 1856番1、1857番、 1858番1	2581.31	宅地造成	令和3年2月16日～22日 5月10日～6月21日		縄文時代土坑1基、 弥生時代後期住居跡8軒、 平安時代住居跡7軒、 土坑16基、溝跡4条 【発掘調査】	35° 84' 48" 139° 56' 70"
7	松山遺跡 第11地点	大字水子字地蔵山 1231-1、1231-2、 1232-1、1232-2、 1246-1、1246-3	2433.2	分譲住宅		5月17日～19日 6月28日～7月14日	弥生時代住居跡1軒、 平安時代土坑1基 【発掘調査】	35° 84' 39" 139° 55' 68"
8	東台遺跡 第59地点	大字水子字東台 4542-5、4451-12	125.06	個人専用 住宅		5月26日	遺構なし 【慎重工事】	35° 83' 93" 139° 56' 10"
9	宮脇遺跡 第63地点	羽沢3丁目558-60	57.72	個人専用 住宅		6月1日	遺構なし 【慎重工事】	35° 85' 26" 139° 54' 28"
10	正網遺跡 第18-2地点	大字水子字正網 5089、5091-1	1413.54	分譲住宅		6月25日	縄文時代住居跡5軒、 平安時代住居跡6軒等 【現状保存】	35° 50' 15" 139° 33' 34"
11	松山遺跡 第12地点	水谷2丁目 5-3、5-、5-5、 5-9、5-10	1387.87	分譲住宅		7月5日～7日	遺構なし 【慎重工事】	35° 84' 36" 139° 55' 58"

第1表 令和3年度調査地点一覧1（令和4年3月10日現在）

No.	遺跡・地点	所在地	面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	調査期間	上段：試掘調査 下段：発掘調査	特記事項	北緯 東経
12	谷津遺跡 第50地点	鶴馬1丁目 2206-6	159.38	個人専用 住宅		7月13日	遺構なし 【慎重工事】	35° 83' 58" 139° 55' 73"
13	栗谷ツ遺跡 第61地点	大字水子字北別所 5009-6	554.84	分譲住宅 宅地造成		7月19日～20日 8月11日～25日	縄文時代住居跡1軒、 平安時代住居跡1軒 【発掘調査】	35° 84' 78" 139° 54' 26"
14	谷津遺跡 第49地点	鶴馬1丁目 2206-6の一部	4	電機等		7月27日	遺構なし 【工事立会】	35° 84' 77" 139° 54' 26"
15	大谷遺跡 第9地点	山室2丁目 1210番5	105.03	個人専用 住宅		7月28日	遺構なし 【慎重工事】	35° 85' 97" 139° 54' 36"
16	山崎遺跡 第2地点	大字水子字山崎 172-4、173-4、 173-5、173-1の一 部、173-2の一部、 174-1の一部、 174-2の一部、 174-3の一部、 175-1の一部、 175-3の一部	2992.81	分譲住宅 宅地造成		8月2日～5日 8月23日～9月1日	縄文時代住居跡1軒、 炉穴1基 【発掘調査】	35° 84' 77" 139° 55' 25"
17	正網南遺跡 第12地点	大字水子 5036-1の一部	1	電機等		8月4日	遺構なし 【工事立会】	35° 83' 48" 139° 56' 00"
18	山室遺跡 第27地点	山室2丁目 1388番4	340.08	個人専用 住宅		8月10日	遺構なし 【慎重工事】	35° 85' 78" 139° 54' 47"
19	谷津遺跡 第52地点	鶴馬1丁目 2206-10の一部	0.89	電気等		9月7日	遺構なし 【工事立会】	35° 50' 52" 139° 32' 34"
20	東台遺跡 第60地点	大字水子 市道1222号線外	62	水道		9月13日～17日	遺構なし 【工事立会】	35° 50' 19" 139° 33' 46"
21	氷川前遺跡 第93地点	大字水子 2147-1、2148-1の 一部、2148-2の一 部	856.72	宅地造成		9月15日～16日	遺構なし 【慎重工事】	35° 84' 45" 139° 55' 87"
22	御庵遺跡 第48地点	鶴馬2丁目 3160番1の一部	126.07	個人専用 住宅		9月13日	遺構なし 【慎重工事】	35° 50' 48" 139° 32' 46"
23	平塚遺跡 第25地点	羽沢3丁目 1534-1の一部	200	個人専用 住宅		9月22日	縄文時代住居跡1軒 【現状保存】	35° 85' 59" 139° 54' 56"
24	谷津遺跡 第51地点	鶴馬1丁目 2218-4	1180.18	宅地造成		10月4日～6日	縄文時代住居跡1軒、 集石1軒、近代土坑1基 【一部現状保存、一部発掘 調査】	35° 84' 90" 139° 54' 25"
25	大谷遺跡 第10地点	山室2丁目 1210番2	105	個人専用 住宅		10月6日	遺構なし 【慎重工事】	35° 51' 35" 139° 32' 36"
26	宮脇遺跡 第64地点	羽沢3丁目 1562番26、1562番27	114.18	個人専用 住宅		10月18日～20日	遺構なし 【慎重工事】	35° 85' 41" 139° 54' 52"
27	南通遺跡 第28地点	針ヶ谷2丁目 24-3、24-4の一部	177.83	集合住宅		10月25日	遺構なし 【慎重工事】	35° 82' 99" 139° 55' 02"
28	氷川前遺跡 第94地点	大字水子 1366-2の一部、 1366-8の一部	0.37	電気等		10月28日	遺構なし 【工事立会】	35° 50' 45" 139° 33' 30"
29	観音前遺跡 第65地点	大字水子字町谷前 1853-1の一部	78	倉庫		11月10日 11月11日～12日	弥生時代住居跡1軒、 平安時代住居跡1軒 【発掘調査】	35° 84' 45" 139° 56' 74"
30	宮廻遺跡 第46地点	大字勝瀬字宮廻 851番1	422	個人専用 住宅		11月10日～11日	遺構なし 【慎重工事】	35° 52' 00" 139° 32' 19"
31	栗谷ツ遺跡 第62地点	大字水子字北別所 4954-1、4955-1他	2622	区画整理 事業		11月24日～12月1日	縄文時代住居跡2軒、土 坑3基、弥生時代住居跡 2軒、平安時代住居跡1 軒、中近世溝跡3条 【発掘調査】	35° 50' 12" 139° 33' 22"
32	難波田氏館跡 第58地点	下南畑 589-4の一部	18	整地		12月9日～13日	土壠 【発掘調査】	35° 85' 86" 139° 56' 75"

第2表 令和3度調査地点一覧2（令和4年3月10日現在）

No.	遺跡・地点	所在地	面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	調査期間	上段：試掘調査 下段：発掘調査	特記事項	北緯 東経
33	羽沢前遺跡 第6地点	羽沢1丁目 644番21	60.01	分譲住宅		12月6日	縄文時代炉穴1基 【発掘調査】	35° 85' 53" 139° 54' 06"
34	氷川前遺跡 第95地点	大字水子字永久保 2137-1、2138-1、 2140 大字水子字寺前 2073-1、2073-4	2790	宅地造成 分譲住宅		1月12日～19日 2月15日～3月14日	縄文時代土坑1基、 弥生時代住居跡2軒、 平安時代住居跡2軒、 平安時代土坑1基 【発掘調査】	35° 84' 47" 139° 55' 93"
35	東台遺跡 第61地点	大字水子 市道1222号線外	55	下水道		1月26日～2月4日	遺構なし 【工事立会】	35° 50' 19" 139° 33' 46"
36	正網遺跡 第21地点	大字水子 5101番1、5101番2、 5102番の一部	485	個人専用 住宅		2月1日～2日 2月3日	中近世土坑1基 【発掘調査】	35° 83' 75" 139° 56' 03"
37	上内手遺跡 第14地点	大字上南畠字上内手 3番1、4番、5番	1264.30	宅地造成 分譲住宅		3月7日～9日	弥生時代住居跡5軒、 平安時代住居跡1軒、 溝跡6条、土坑8基 【発掘調査】	35° 86' 78" 139° 55' 11"

第3表 令和3年度調査地点一覧3（令和4年3月10日現在）

## 第2章 氷川前遺跡第66地点

### 第1節 遺跡の概要

#### 1. 遺跡の立地と調査地点の概要

氷川前遺跡は武藏野台地縁辺部の台地上に立地し、北に荒川低地を臨む。市域の武藏野台地は新河岸川の支流で開析された小支谷によって3つの支台に画されるが氷川前遺跡は水子支台に位置し、その北端部に広がる広大な遺跡である。

遺跡の西部から南西部は、新河岸川に注ぐ江川の支流により開析された桜井谷と呼ばれる小支谷によって画され、台地西部から南西部は緩やかな傾斜を呈している。それに対し、遺跡北東部は急峻な崖となっている。台地平坦部は標高17～19mで、北側の荒川低地との比高差は約12mを測る。

遺跡東側に東前遺跡が隣接し、遺跡南東部は縄文時代前期の貝塚を伴う環状集落である国指定史跡水子貝塚を内包する。また、西の小支谷を挟んだ対岸に打越遺跡、南西の対岸に松山遺跡が立地する。

当遺跡はこれまでに65地点の調査が行われ、旧石器時代から近世にかけての遺構や遺物が検出されてい

る。

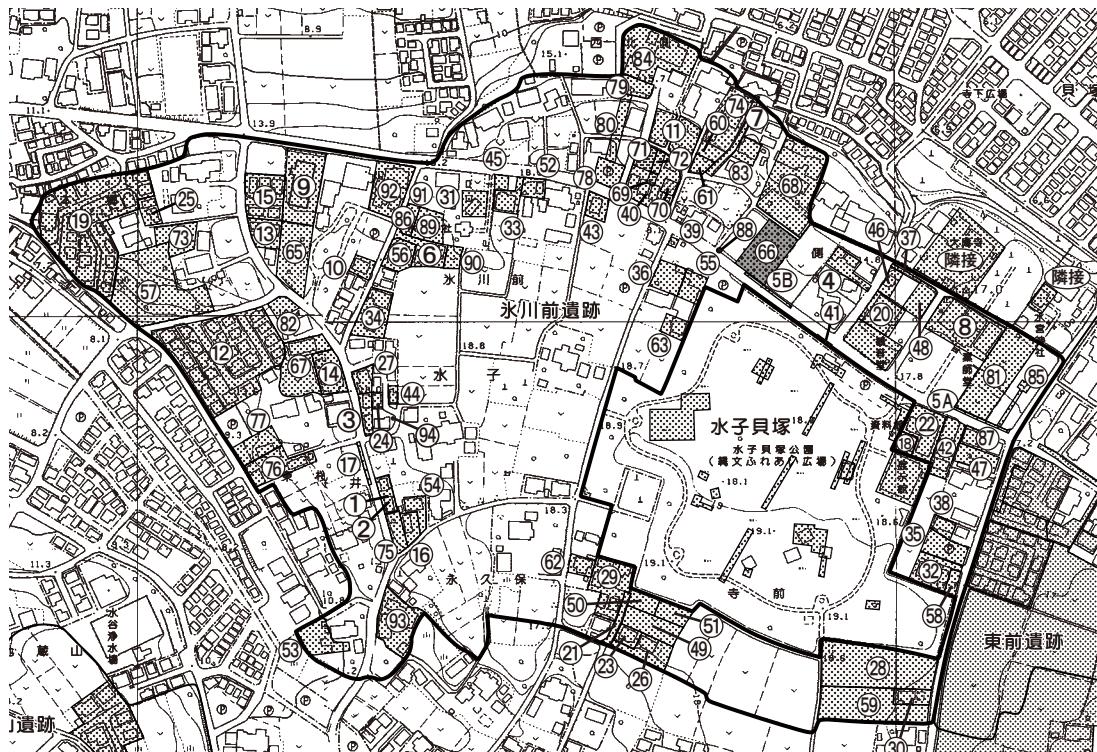
旧石器時代では、第5地点でIV層から尖頭器を含む石器群、第48地点で礫群1基が検出されている。

縄文時代では、住居跡13軒や集石2基、炉穴55基が検出されている。遺跡西部で早期後半の条痕文期の住居跡、遺跡南部や西部で炉穴が検出されている。前期では関山式期や諸磯式期の住居跡が検出され、中期では加曾利E式期の住居跡、後期では加曾利B式期の注口土器が単独で出土している。

弥生時代では、後期～古墳時代初頭の住居跡が30軒検出され、遺跡北部で方形周溝墓4基が検出されている。

古墳時代では、後期の住居跡7軒が確認されている。

平安時代になると、工房跡を含む住居跡42軒、掘立柱建物跡16棟等が検出され、特に遺跡西部の緩斜面上では鍛冶工房跡と推定される遺構が2軒確認される。また、遺跡を中心に須恵器坏や蓋に「得子」と墨書された土器が集中して出土し、また、谷を挟んだ松山遺跡出土の藏骨器の蓋にも「得子」と墨書されており、特筆される。



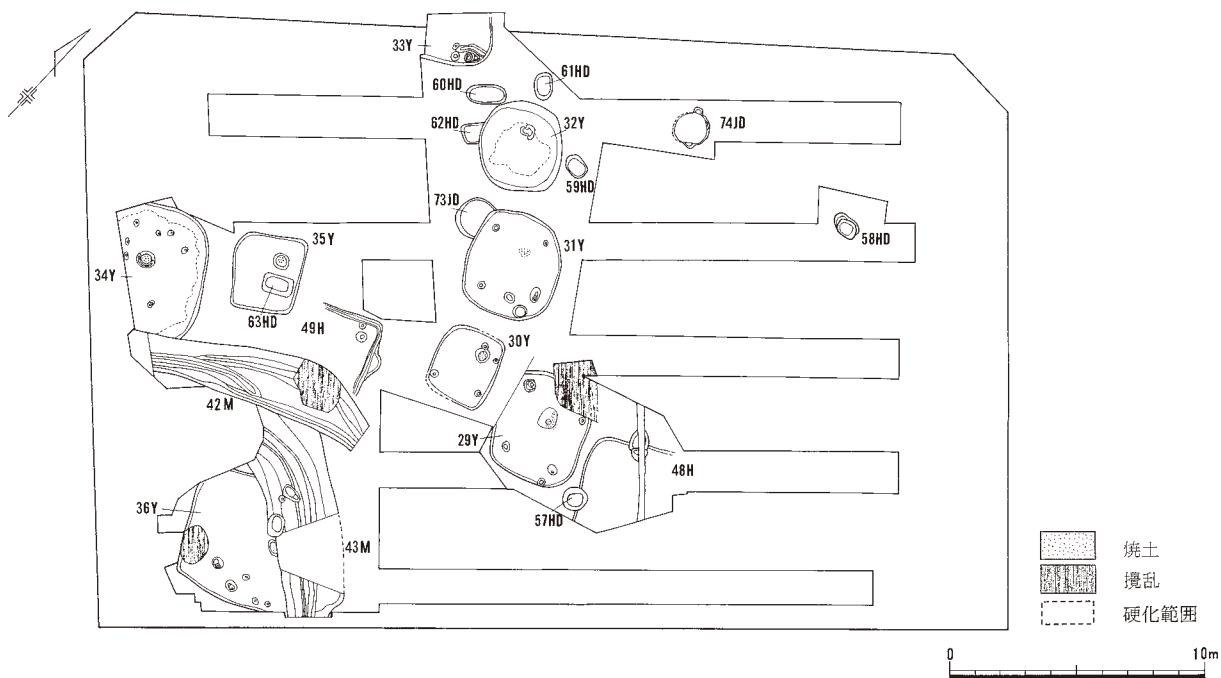
第2図 氷川前遺跡第66地点 (1/5000)

## 2. 発掘調査の経過

本地点は個人専用住宅の建設に伴い、平成27年8月24日～28日に試掘調査を実施した。その結果、縄文時代の土坑2基（73JD・74JD）、弥生時代後期の住居跡8軒（29Y～36Y）、古墳時代の土坑2基（58HD・63HD）、平安時代の住居跡2軒（48H・49H）

H）、時期不明の土坑5基（57HD・59HD～62HD）、溝跡2条（42M・43M）が検出された。

検出された遺構の深度から、工事の掘削等の影響が遺構に及び、十分な保護層を確保できない見込みであった。そのため、記録保存を目的とした発掘調査を平成27年9月1日～10月8日に実施した。



第3図 氷川前遺跡第66地点遺構配置図（1/300）

## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

### 第73号土坑（73JD）（第4図）

【位置】 調査区中央部

【構造】 規模は長径165cm、短径160cm、深さ64cmを測る。主軸方位はN-86°-E。平面形は円形を呈する。

【覆土】 暗褐色土を基調とし、6層に分層される。

【遺物出土状況】 覆土上層から下層にかけて散在して土器片が出土している。2は覆土上層から出土している。

【時期】 縄文時代前期か

### 第74号土坑（74JD）（第4図）

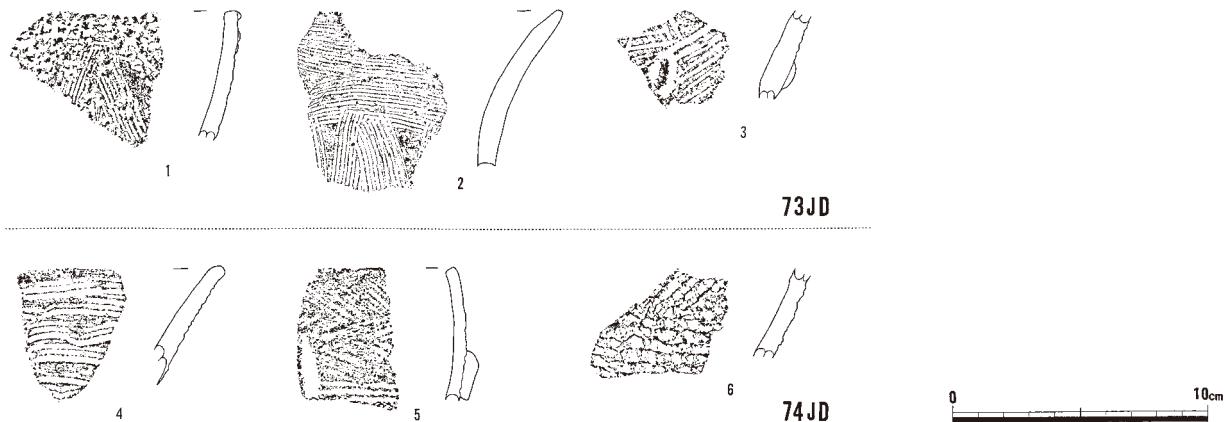
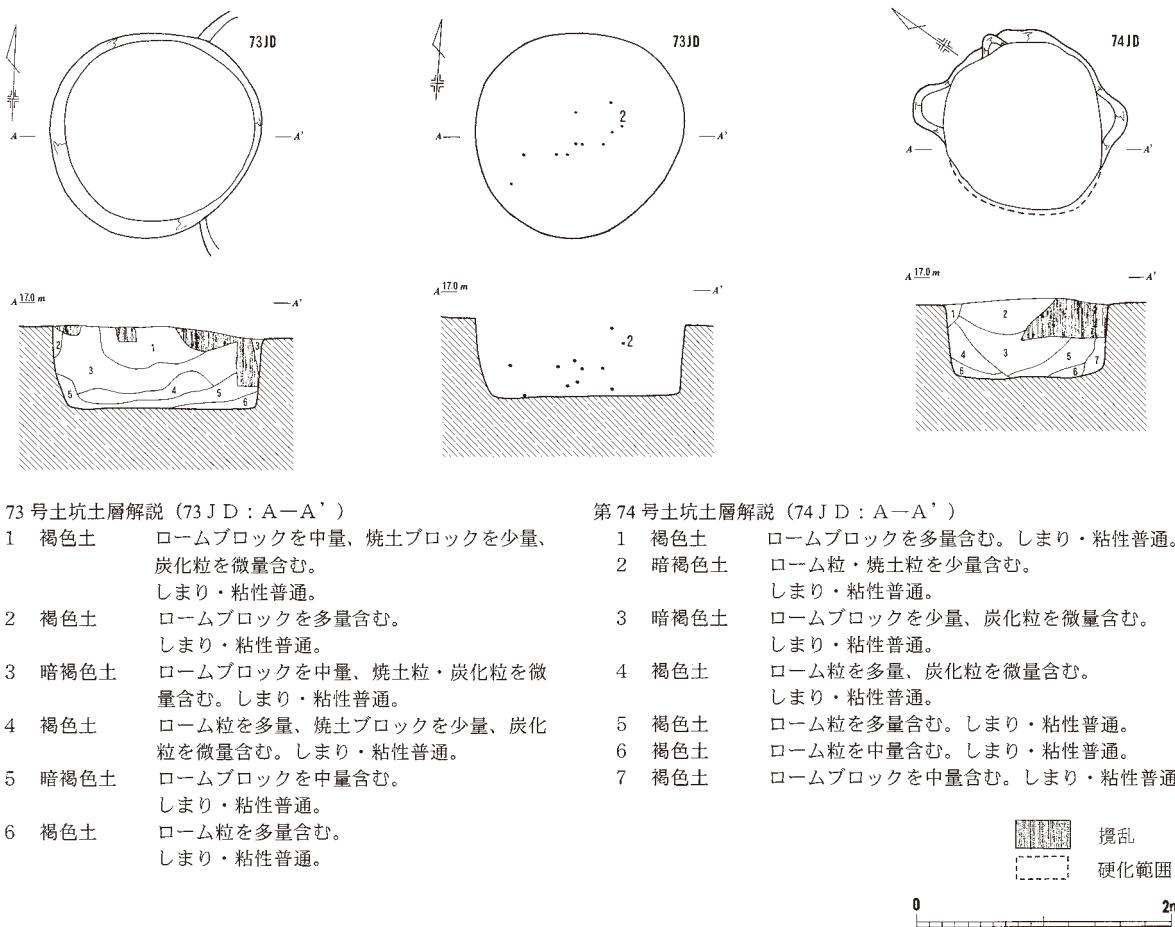
【位置】 調査区北部

【構造】 規模は長径141cm、短径123cm、深さ58cmを測る。主軸方位はN-58°-E。平面形は橢円形で、壁にピット状の掘り込み3か所が確認される。

【覆土】 暗褐色土を基調とし、7層に分層される。

【遺物出土状況】 覆土中から散在して土器片が出土している。

【時期】 縄文時代前期か



第4図 第73・74号土坑及び出土遺物 (73JD・74JD : 1/30、1/60)

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	縄文土器 深鉢	-	-	(5.1)	橙色	石英 砂粒	細い粘土紐貼付、その上から竹 管状工具による押引文
2	土器	-	-	(6.1)	黒褐色	石英 小礫	刷毛目または櫛目文か
3	縄文土器 深鉢	-	-	(3.5)	暗褐色	石英 雲母 小礫	沈線 貼付文
4	縄文土器 深鉢	-	-	(4.6)	黄褐色	石英 砂粒	櫛目状工具による施文 施文具幅約 7 mm
5	縄文土器 深鉢	-	-	(5.2)	黄褐色	石英 砂粒	沈線 貼付文
6	縄文土器 深鉢	-	-	(3.6)	黄褐色	石英 織維 白色粒子	羽状縄文

※ ( ) は現存の寸法

第4表 第73・74号土坑 (73JD・74JD) 出土土器観察表

### 第3節 弥生時代の遺構と遺物

#### 第29号住居跡 (29Y) (第5図)

[位置] 調査区中央部

[構造] (平面形) 隅丸長方形 (規模) 長軸 4.2 m × 短軸 3.5 m (主軸方位) N - 25° - W (壁高) 床面から 12 ~ 20 cm を測る。(床) 平坦である。(炉) 地床炉。住居跡中央部北寄りに位置する。規模は長軸 76 cm、短軸 69 cm の不整形を呈する。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。(貯蔵穴) 住居跡南東部に位置する。規模は長径 27 cm、短径 25 cm の円形を呈し、深さは 10 cm を測る。(柱穴) 確認された主柱穴は P 1 ~ P 4 で、深さ 3 ~ 49 cm を測る。

[覆土] 黒褐色土を基調とし、8層に分層される。

[遺物出土状況] 住居跡中央部から北西部の覆土中層から下層にかけて散在して土器片が出土している。1は、住居跡中央部東寄りの覆土下層から出土している。

[時期] 弥生時代後期

#### 第30号住居跡 (30Y) (第6図)

[位置] 調査区中央部

[構造] (平面形) 隅丸長方形 (規模) 長軸 2.9 m、短軸 2.5 m (主軸方位) N - 23° - W (壁高) 床面から 12 ~ 14 cm を測る。(床) やや凹凸がある。(炉) 地床炉。住居跡北東部に位置する。規模は長径 62 cm、短径 58 cm の円形を呈する。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。(柱穴) 確認された主柱穴は P 1 ~ P 3 で、深さ 8 ~ 12 cm を測る。P 4 は性格不明のピットで、深さ 8 cm を測る。

[覆土] 黒褐色土を基調とし、5層に分層される。

[遺物出土状況] 覆土中から散在して土器片が出土し、1は覆土中から出土している。また、住居跡中央部東寄りの下層から焼土塊、壁際の覆土下層から炭化材が検出されている。

[時期] 弥生時代後期

#### 第31号住居跡 (31Y) (第7図)

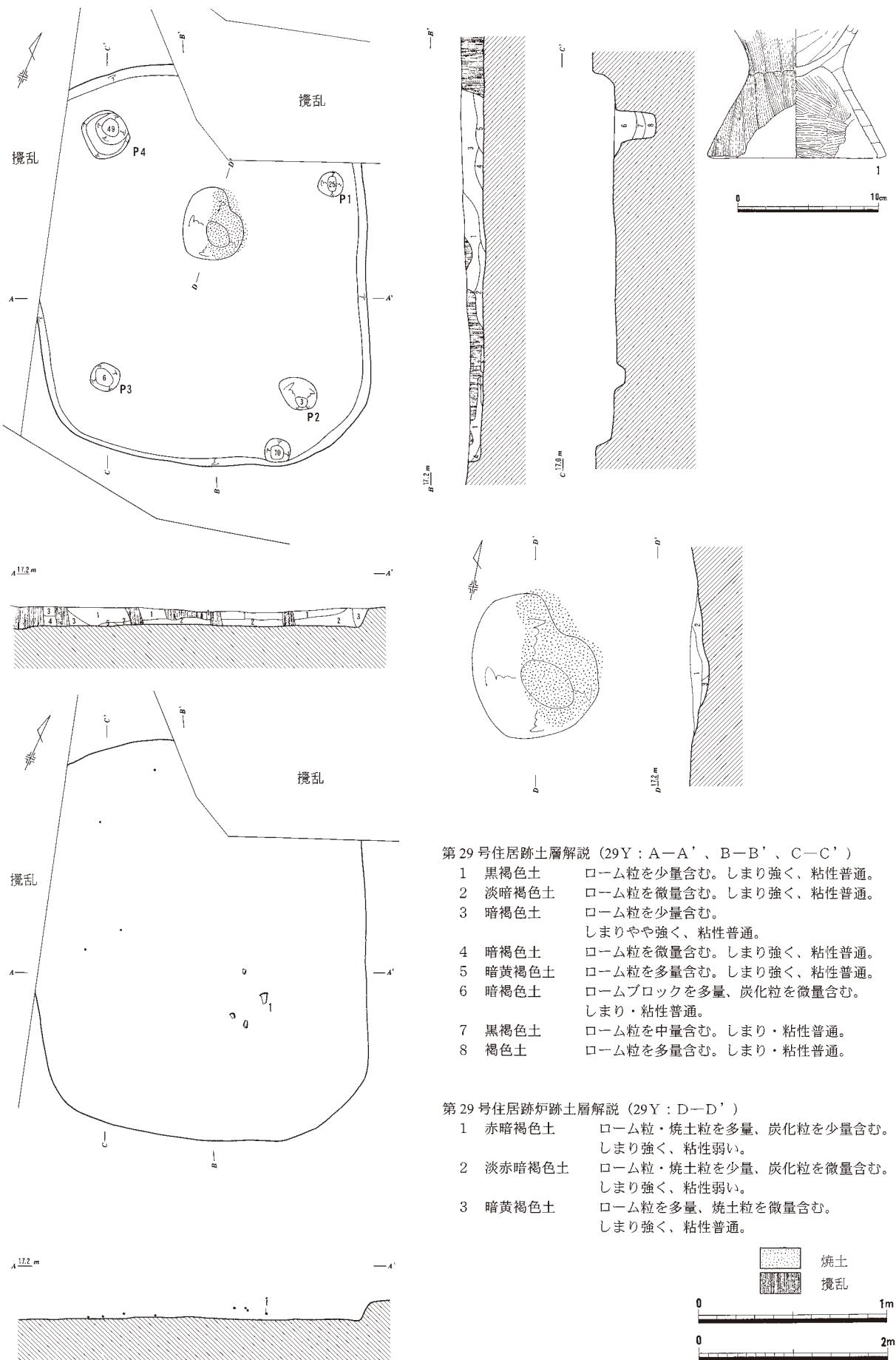
[位置] 調査区中央部

[構造] (平面形) 隅丸長方形 (規模) 長軸 4.2 m、短軸 3.7 m (主軸方位) N - 25° - W (壁高) 床面から 4 ~ 11 cm を測る。(床) 平坦で、炭化物や焼土粒を含んだ第4層を埋め戻して床を構築している。(炉) 火皿式。住居跡中央部北寄りに位置する。規模は長径 46 cm、短径 27 cm の楕円形を呈する。楕円形に掘り込んだ部分に第2層の黒褐色土を埋め戻し、第1層である粘土塊を貼り付けて構築している。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。(貯蔵穴) 住居跡南東部に位置する。規模は長径 51 cm、短径 46 cm の円形を呈し、底部は床面から 6 cm を測る。(柱穴) 確認された主柱穴は P 1 ~ P 4 で、深さ 4 ~ 36 cm を測る。P 5 は出入口施設に伴うピットで、深さ 5 cm を測る。

[覆土] 黒褐色土を基調とし、3層に分層される。

[遺物出土状況] 覆土中から土器片が散在して出土している。細片のため、図化できなかった。

[時期] 弥生時代後期



第5図 第29号住居跡及び出土遺物 (29Y : 1/30、1/60、1/4)

No.	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調	胎土	備考
1	台付甕 脚部	—	12.6	(10.3)	暗褐色	石英 小礫 砂粒	外内面：刷毛目調整

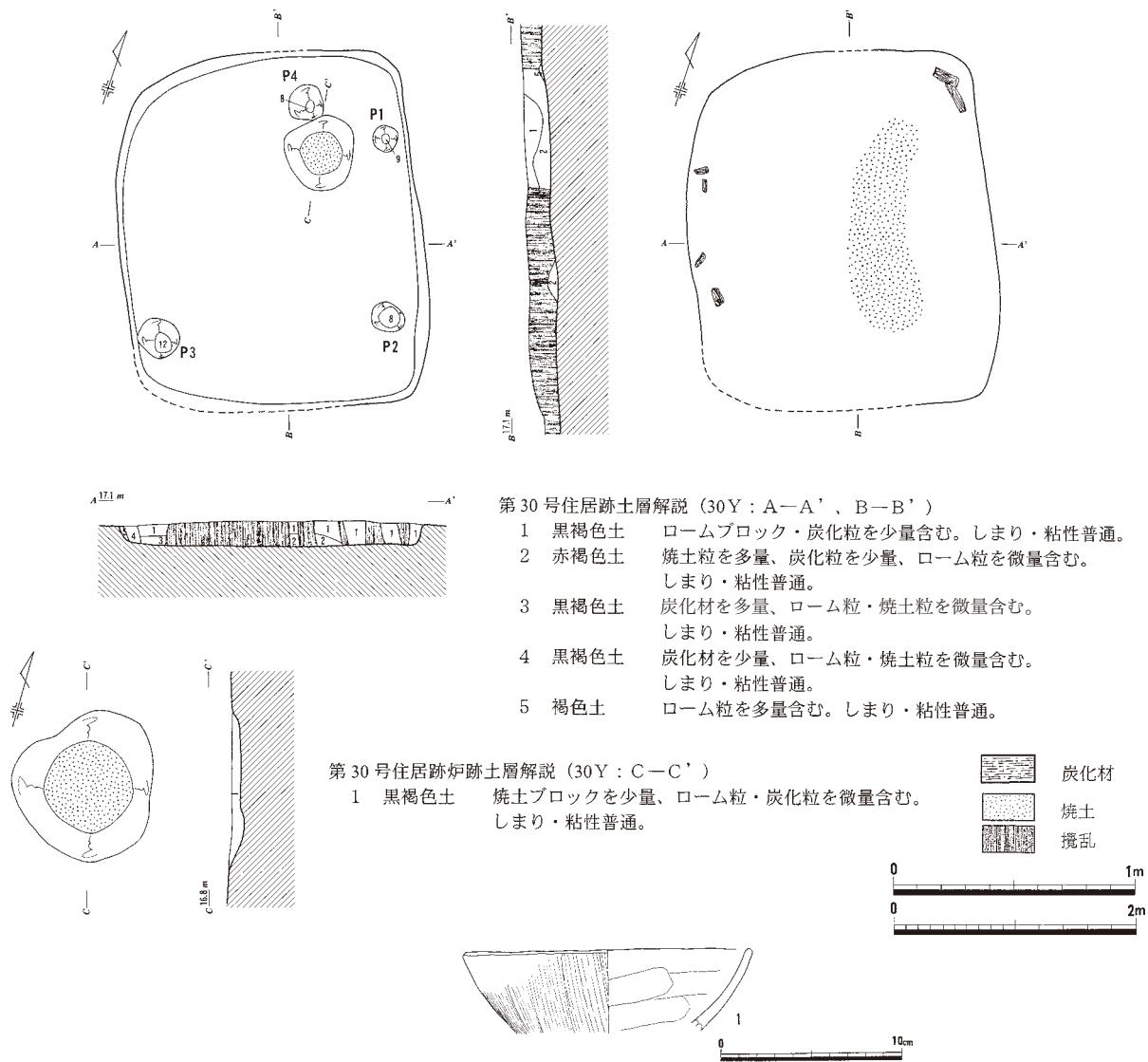
※ ( ) は現存の寸法

第5表 第29号住居跡(29Y)出土土器観察表

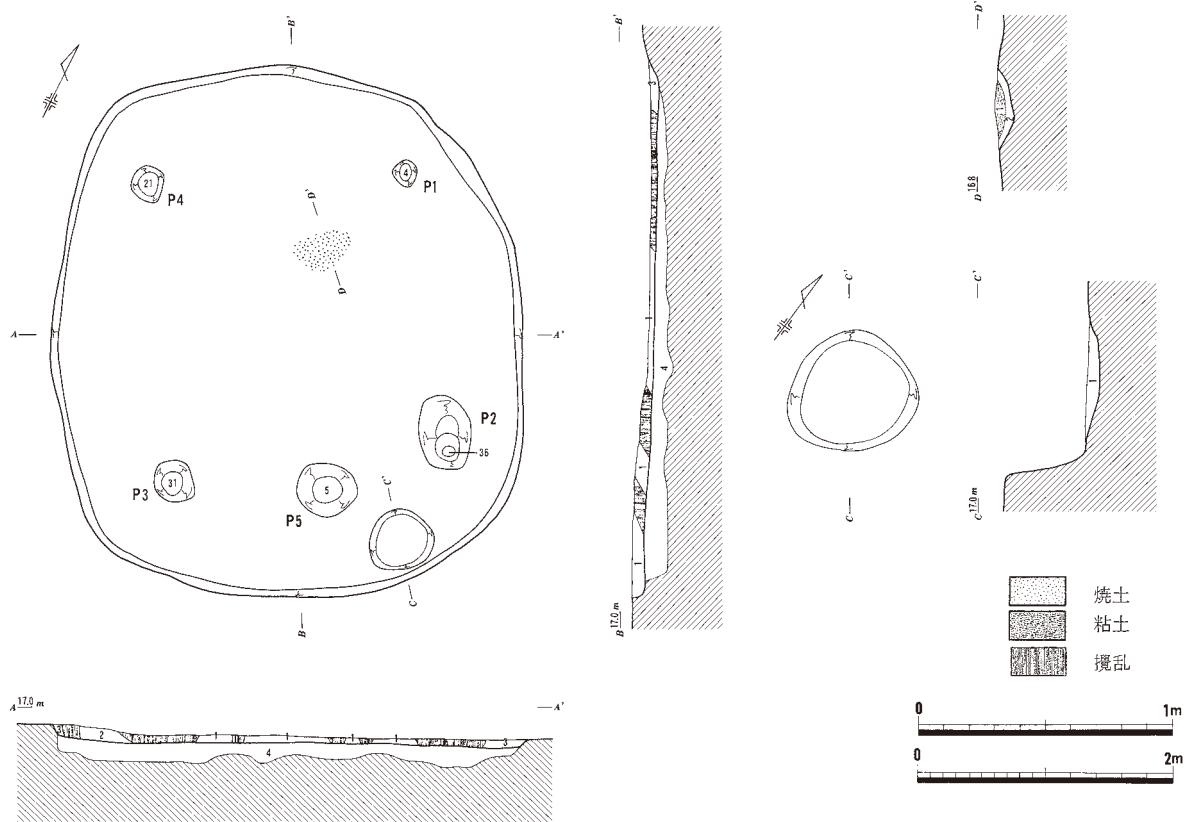
No.	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色調	胎土	備考
1	高壺か	15.8	—	(4.5)	黄褐色	石英 白色粒子	外面：刷毛目調整 内面：ヘラナデ

※ ( ) は現存の寸法

第6表 第30号住居跡(30Y)出土土器観察表



第6図 第30号住居跡及び出土遺物(30Y: 1/30, 1/60, 1/4)



第31号住居跡土層解説 (31Y : A-A'、B-B')

- |         |                                    |
|---------|------------------------------------|
| 1 黒褐色土  | ローム粒・焼土粒を微量含む。<br>しまりやや強く、粘性普通。    |
| 2 黒褐色土  | 焼土粒を多量、ローム粒を微量含む。<br>しまり強く、粘性普通。   |
| 3 淡暗褐色土 | ロームブロックを多量含む。<br>しまり強く、粘性普通。       |
| 4 黒褐色土  | 炭化物を中量、ローム粒・焼土粒を微量含む。<br>しまり・粘性普通。 |

第31号住居跡貯蔵穴土層解説 (31Y : C-C')

- |       |                            |
|-------|----------------------------|
| 1 暗色土 | ロームブロックを少量含む。<br>しまり・粘性普通。 |
|-------|----------------------------|

第31号住居跡炉跡土層解説 (31Y : D-D')

- |         |                                  |
|---------|----------------------------------|
| 1 灰赤褐色土 | 粘土粒を多量含む。しまり・粘性強い。               |
| 2 黒褐色土  | 焼土ブロックを中量、炭化粒を微量含む。<br>しまり・粘性普通。 |

第7図 第31号住居跡 (31Y : 1/30、1/60)

### 第32号A・B住居跡 (32Y) (第8・9図)

【位置】 調査区北西部

【構造】 本跡は拡張された住居跡であるため、第32 A号住居跡、第32 B号住居跡と分けて解説する。

#### 〔第32 A号住居跡〕

(平面形) 楕円形 (規模) 長径3.5m、短径3.3m (主軸方位) N - 42° - W (壁高) 床面から14~22cmを測る。(床) 平坦で、壁際を除いて硬化範囲を確認した。(炉) 火皿式。住居跡中央部北東寄りに位置し、規模は長軸60cm、短軸57cmの不整形を呈する。床面に第2・3層の赤褐~黒褐色土を盛土し、第1層である粘土塊を貼り付けて構築している。

#### 〔第32 B号住居跡〕

(平面形) 隅丸方形 (規模) 長軸3.0m、短軸2.7m (主軸方位) N - 57° - W (壁高) 床面から15~29cmを測る。(床) 凹凸がある。(炉) 地床炉。住居跡中央部北寄りに位置する。規模は長径66cm、短径

61cmの楕円形を呈する。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。

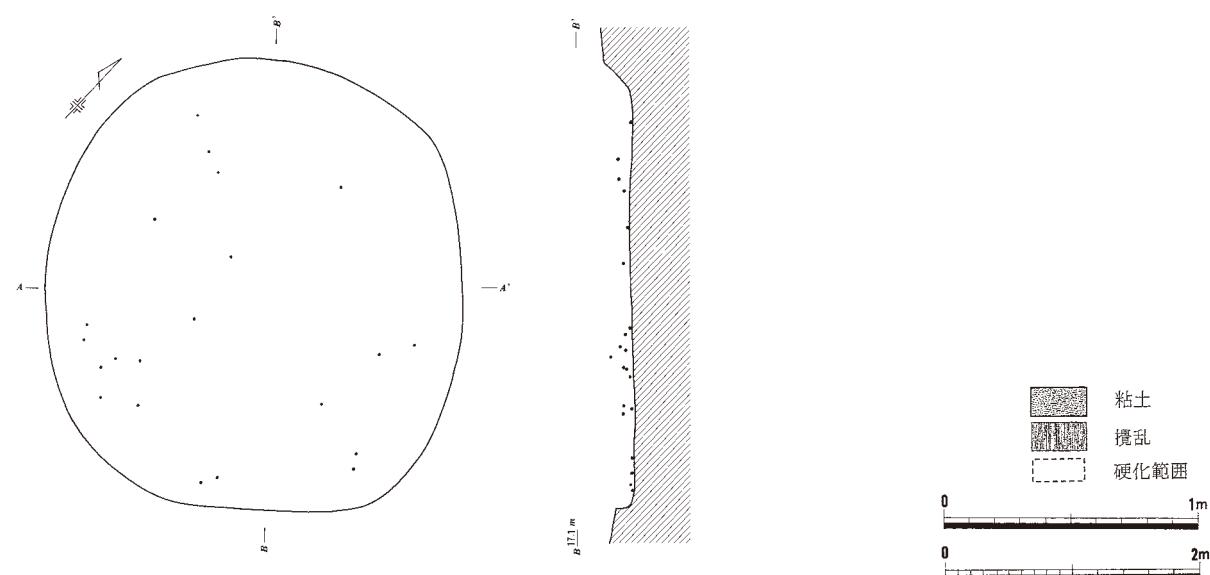
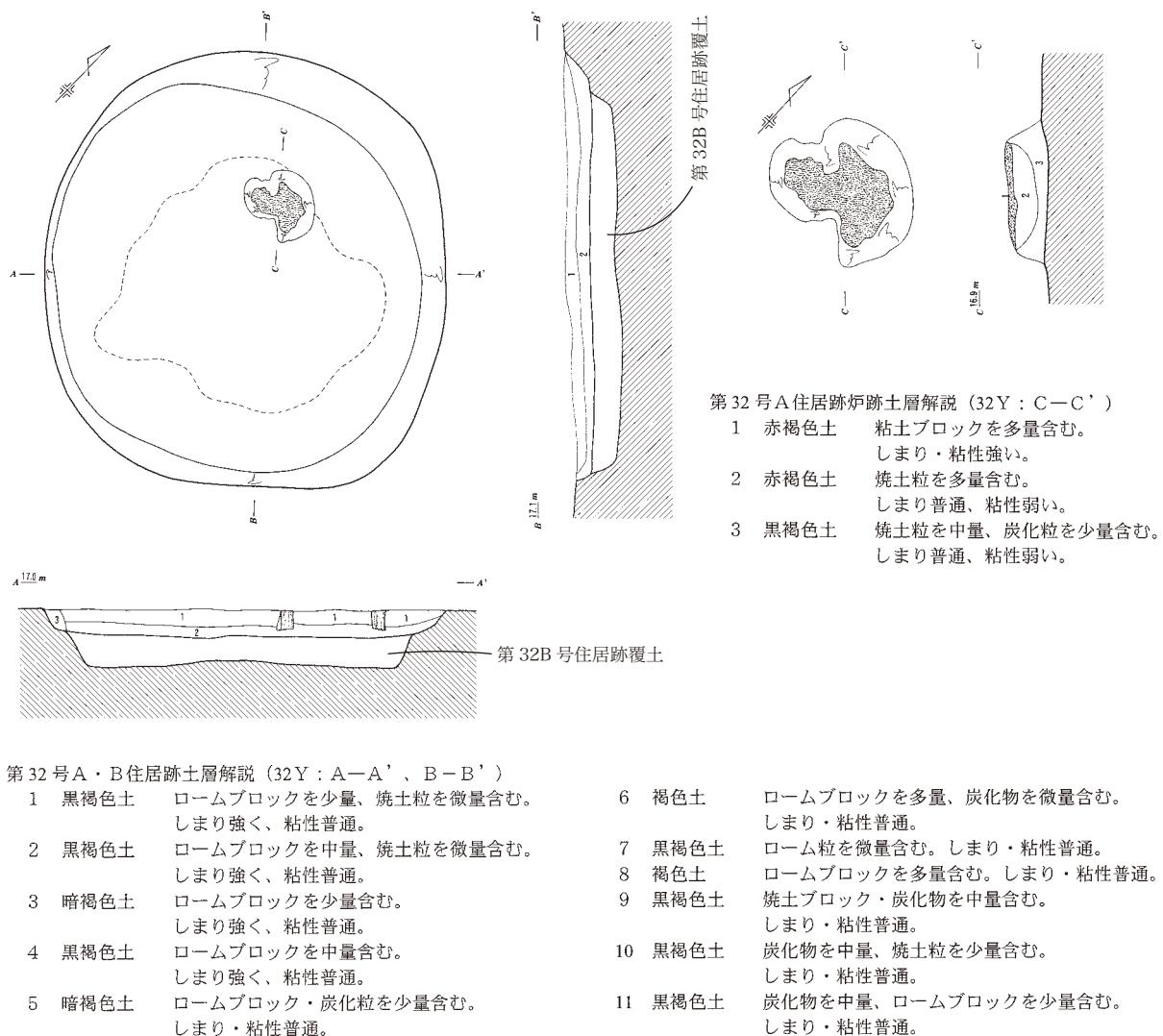
【覆土】 第32 A号住居跡は、黒褐色土を基調とする。

3層に分層され、第1~3層が該当する。第32 B号住居跡は、褐色土を基調とする。8層に分層され、第4~11層が該当する。

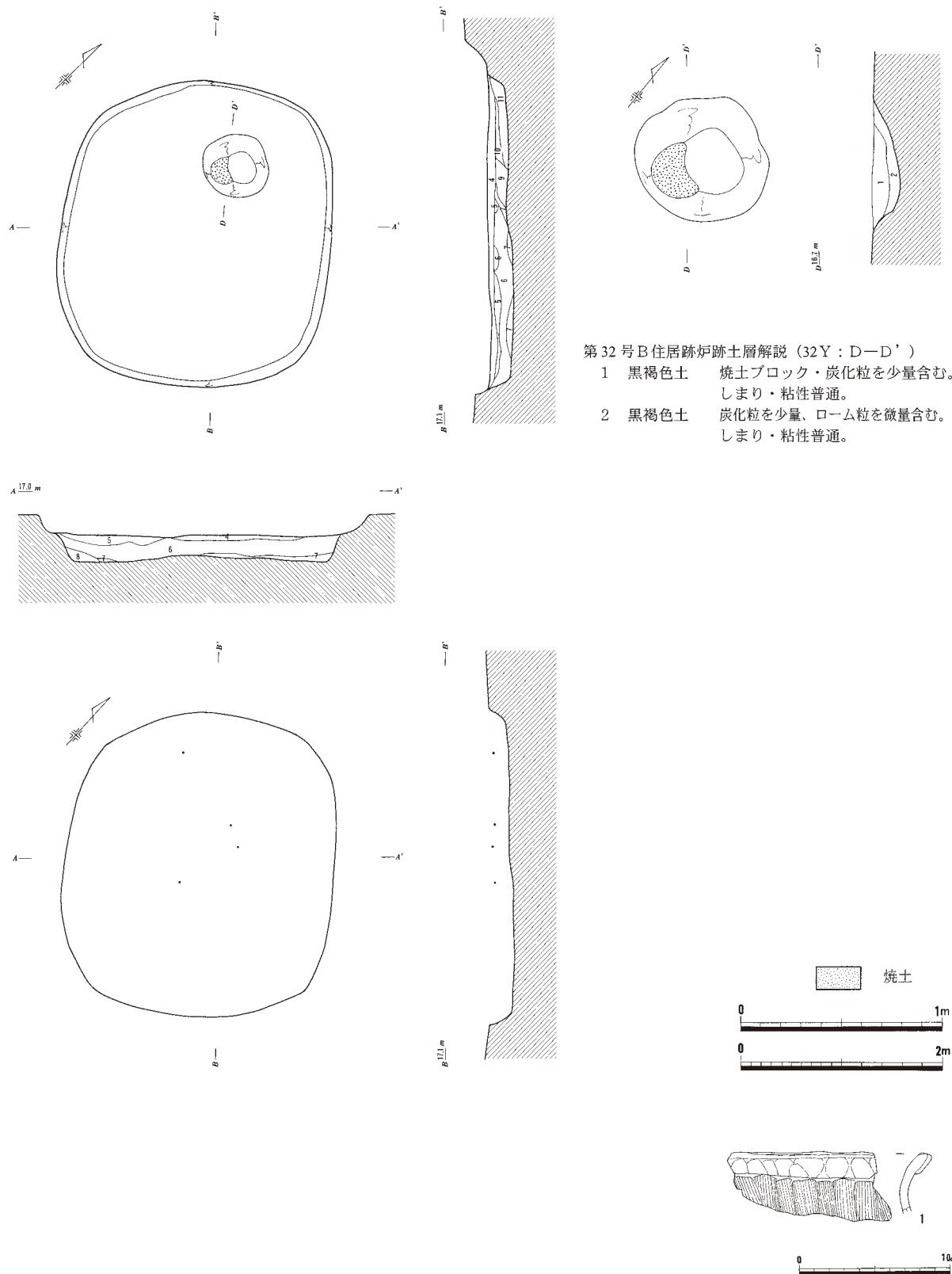
【遺物出土状況】 第32 A号住居跡は、住居跡全体の覆土上層から下層にかけて散在して土器片が出土している。第32 B号住居跡は、住居跡中央部を中心に覆土中層から散在して土器片が出土し、1は覆土中から出土している。

【時期】 弥生時代後期

【備考】 本跡の新旧関係は、第32 B号住居が建てられた後、壁を拡張して床面まで浅い第32 A号住居が建てられている。また、炉は地床炉から火皿式炉へと移り変わっている。第62号土坑 (62HD) との新旧関係は不明である。



第8図 第32A号住居跡 (32Y : 1/30、1/60)



第9図 第32B号住居跡及び出土遺物 (32Y:1/30, 1/60, 1/4)

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	甕 口縁部	—	—	(4.0)	黄褐色	石英 砂粒 白色粒子	外面: 刷毛目調整、指頭圧痕 内面: 刷毛目調整

※ ( ) は現存の寸法

第7表 第32B号住居跡 (32Y) 出土土器観察表

## 第33号住居跡 (33Y) (第10図)

[位置] 調査区北西部

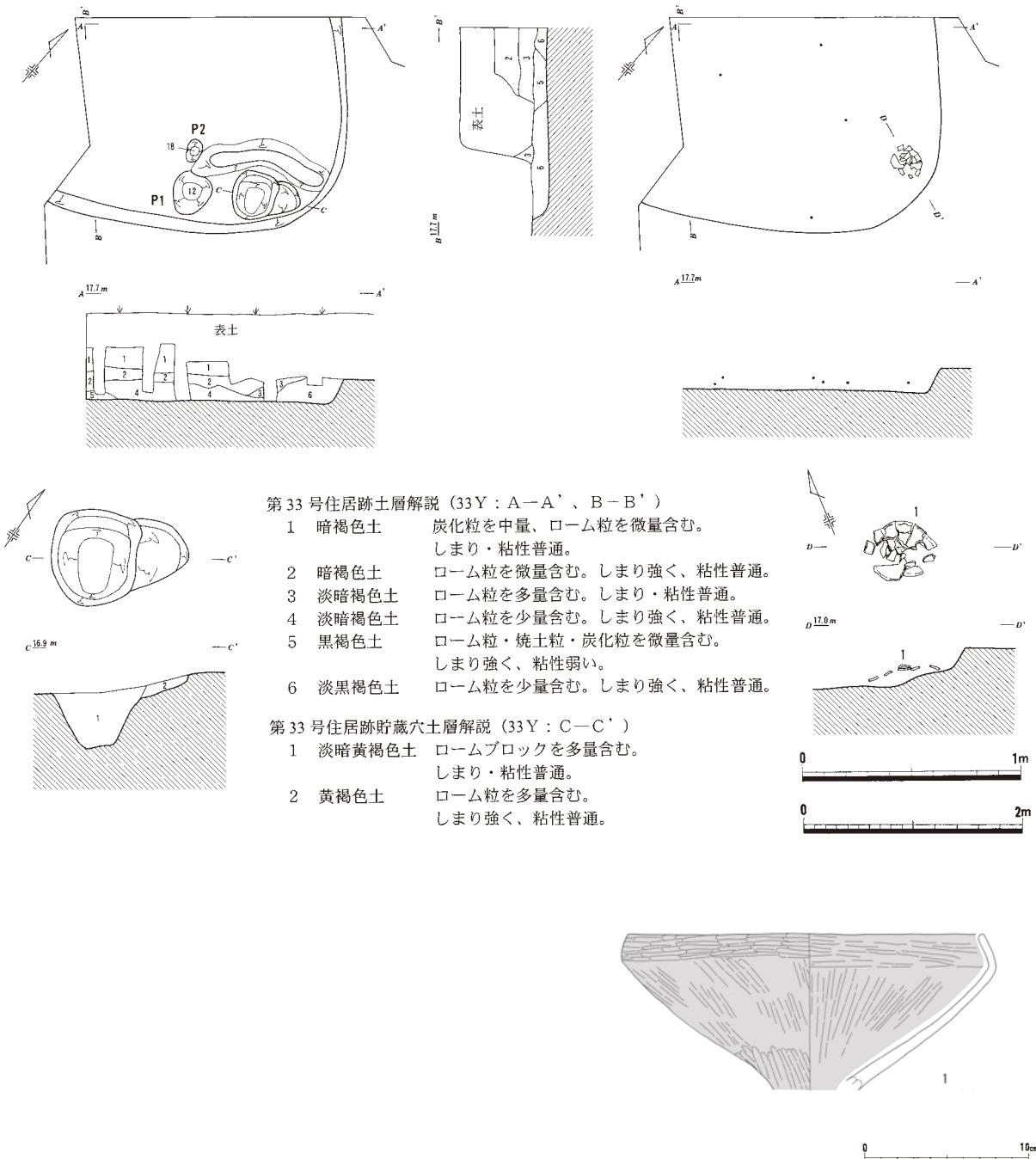
[構造] (平面形) 隅丸方形 (規模) 住居跡北部及び西部が調査区域外へ伸びており、確認できた範囲で長軸2.5m以上、短軸1.9m以上である。(主軸方位) N - 60° - E (壁高) 床面から16~24cmを測る。(床) 平坦である。(貯蔵穴) 住居跡東部に位置する。規模は長軸62cm、短軸44cmの隅丸長方形を呈し、底部は床面から深さ24cmを測る。北側に最大

幅28cmの周堤を確認した。(柱穴) P1・P2は出入口施設に伴う柱穴と考えられ、深さ12cm・18cmを測る。

[覆土] 暗褐色土を基調とし、6層に分層される。

[遺物出土状況] 住居跡全体の覆土中層から下層にかけて散在して土器片が出土している。1は、東コーナー部の覆土下層から出土している。

[時期] 弥生時代後期



第10図 第33号住居跡及び出土遺物 (33Y : 1/30、1/60、1/4)

No	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	高壺 口縁部	22.0	-	(9.6)	黄褐色	石英 白色粒子 赤色粒子	外内面：ヘラ磨き、赤彩

※ ( ) は現存の寸法

第8表 第33号住居跡 (33Y) 出土土器観察表

## 第34号住居跡 (34Y) (第12図)

[位置] 調査区西部

[構造] (平面形) 隅丸長方形 (規模) 住居跡西部が調査区域外へ伸び、南部が第42号溝 (42M) に掘り込まれているため、確認できた範囲で長軸4.9m以上、短軸3.3m以上である。(主軸方位) N - 27° - W(壁高)床面から9~16cmを測る。(床) やや凹凸があり、壁際を除いて踏み固められている。(炉) 火皿式。住居跡中央部北西寄りに位置する。規模は長径72cm、短径61cmの楕円形を呈する。楕円形に掘り込んだ部分に黒褐色土の第3・4層を埋め戻し、粘土塊を貼り付けて構築している。さらに南部に粘土塊を貼り付けて最大幅16cmの周堤を構築

している。炉床面は、火熱を受けて硬化している。(柱穴) 確認された主柱穴はP1~P3で、深さ25~41cmを測る。P4~P8は性格不明のピットで、深さ13~33cmを測る。

[覆土] 淡暗褐色土を基調とし、8層に分層される。

[遺物出土状況] 住居跡全体の覆土上層から下層にかけて土器片が出土している。1は住居跡西部の覆土上層から、2・3は住居跡東部の覆土中層及び下層から、4・5は住居跡北部の覆土上層からそれぞれ出土している。また、住居跡全体の覆土下層から焼土塊や炭化材が検出された。

[時期] 弥生時代後期

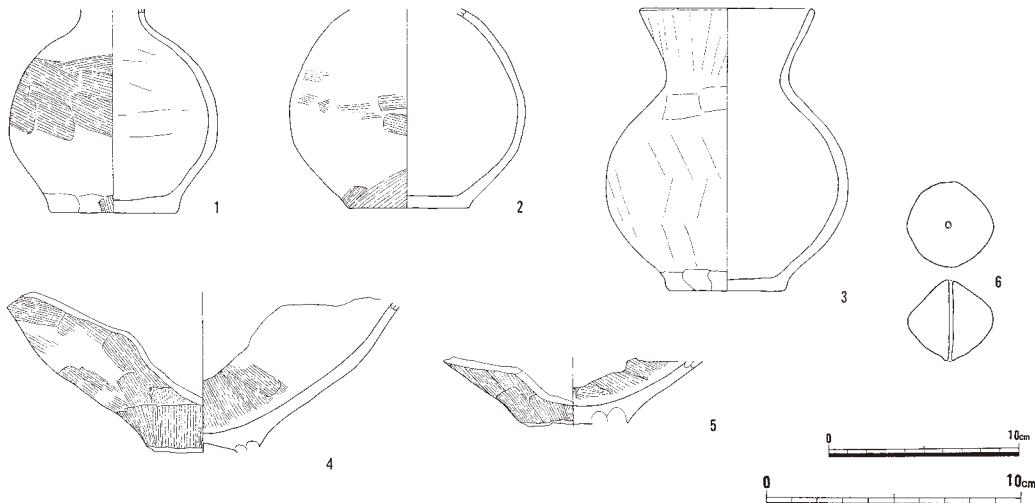
No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	小形壺	—	6.5	(10.5)	黄褐色	石英 小礫 白色粒子	外面: 刷毛目調整、ナデ 内面: ナデ
2	小形壺	—	6.3	(10.3)	黄褐色	石英 黄褐色粒子	外内面: 刷毛目調整
3	小形壺	9.1	6.2	14.7	黄褐色	石英 黄褐色粒子	外面: ヘラナデ
4	台付甕 胴部	—	—	(8.5)	橙色	石英 小礫 黄褐色粒子	外内面: 刷毛目調整
5	台付甕 胴部	—	—	(3.6)	橙色	石英 小礫 砂粒 黄褐色粒子	外内面: 刷毛目調整

※ ( ) は現存の寸法

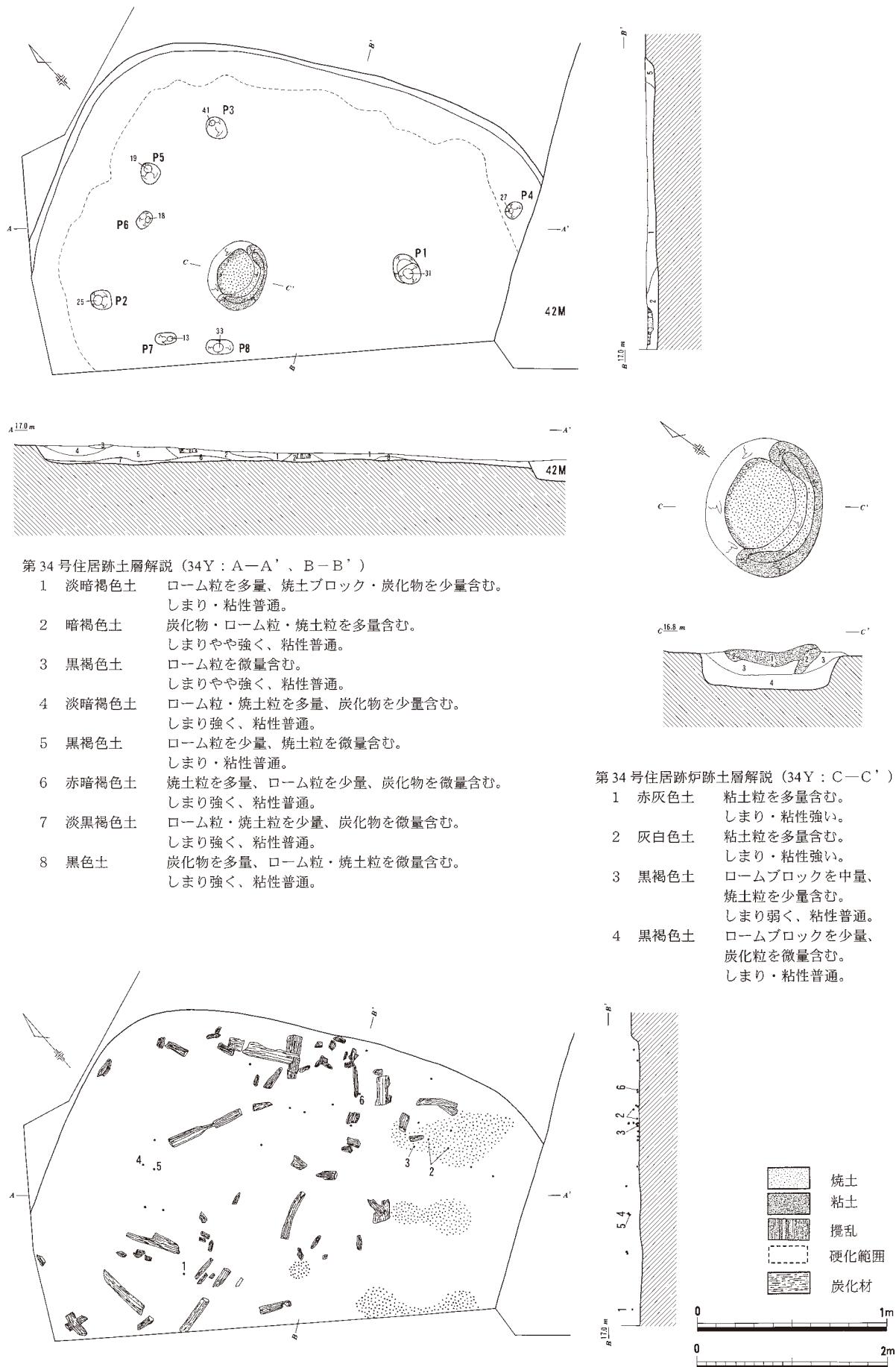
第9表 第34号住居跡 (34Y) 出土土器観察表

No.	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	色調	胎土	備考
6	土玉	3.3	3.4	3.1	橙色	石英 小礫 砂粒	穿孔径0.1mm

第10表 第34号住居跡 (34Y) 出土土製品観察表



第11図 第34号住居跡出土遺物 (34Y: 1/3, 1/4)



第12図 第34号住居跡 (34Y: 1/30, 1/60)

## 第35号住居跡 (35Y) (第13図)

[位置] 調査区西部

[構造] (平面形) 隅丸長方形 (規模) 長軸3.0m、短軸2.6m (主軸方位) N-31°-W (壁高) 床面から4~7cmを測る。(床) やや傾斜している。(炉) 地床炉。住居跡北部に位置する。規模は長径63cm、短径61cmの円形を呈する。炉床面は、火熱を受け赤変硬化している。

[覆土] 黒褐色土を基調とし、2層に分層される。

[遺物出土状況] 住居跡西半部の覆土上層から下層にかけて散在して土器片が出土している。1は住居跡西コーナー部の覆土下層から出土している。

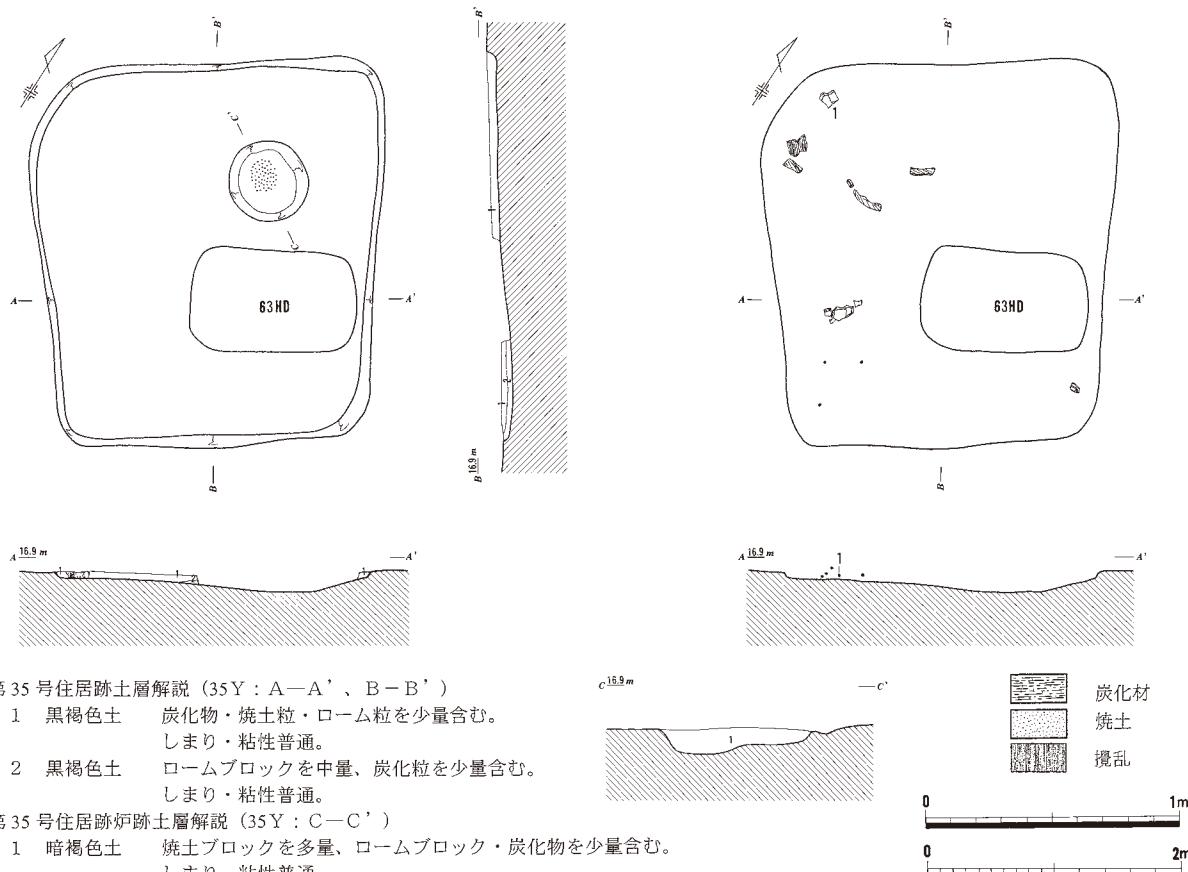
[時期] 弥生時代後期

[備考] 本跡は、第63号土坑 (63HD) に掘り込まれている。

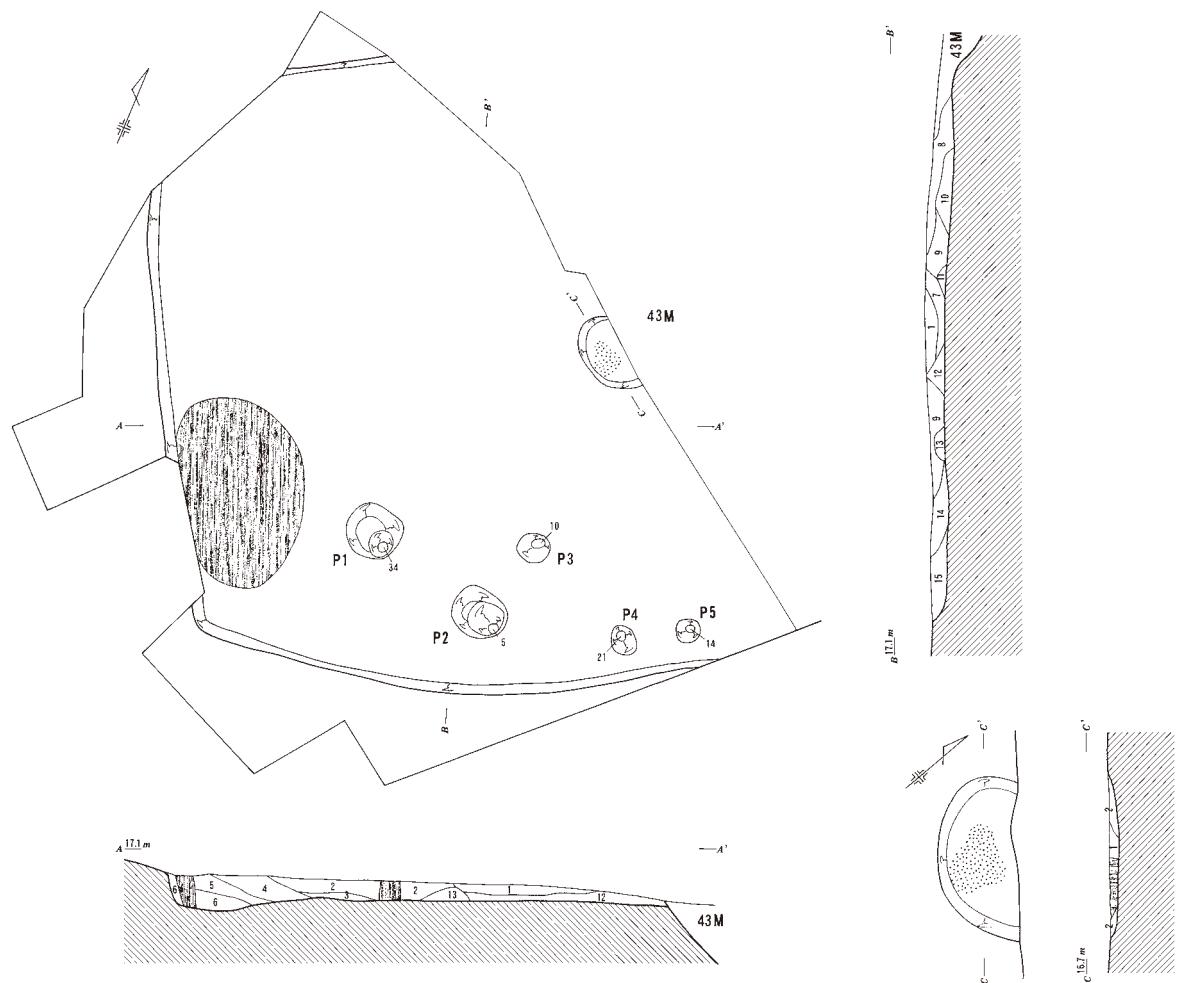
No	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	壺 口縁部	-	-	(9.2)	褐色	石英 小礫 赤色粒子	外面: ヘラ磨き、赤彩

※ ( ) は現存の寸法

第11 第35号住居跡 (35Y) 出土土器観察表



第13図 第35号住居跡及び出土遺物 (35Y : 1/60、1/4)

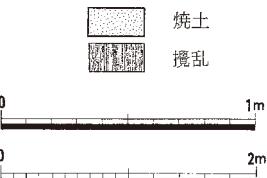


第36号住居跡土層解説 (36Y : A-A' , B-B')

- 1 黒褐色土 ローム粒・炭化粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 2 黒褐色土 ロームブロック・炭化物を少量含む。  
しまり・粘性普通。
- 3 黒褐色土 炭化物を中量、焼土粒を微量含む。  
しまり・粘性普通。
- 4 黒褐色土 ロームブロックを少量、炭化物を微量含む。  
しまり・粘性普通。
- 5 黒褐色土 ローム粒を微量含む。しまり・粘性普通。
- 6 黒褐色土 ロームブロック・焼土ブロック・炭化材を少量含む。  
しまり・粘性普通。
- 7 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。しまり・粘性普通。
- 8 黒褐色土 焼土粒を中量、炭化材を少量含む。しまり・粘性普通。
- 9 暗褐色土 焼土ブロック・ローム粒を中量含む。  
しまり・粘性普通。
- 10 暗褐色土 焼土ブロック・ローム粒を中量、炭化粒を多量含む。  
しまり・粘性普通。
- 11 暗褐色土 ローム粒を多量含む。しまり・粘性普通。
- 12 暗褐色土 ロームブロック・炭化粒を少量含む。  
しまり・粘性普通。
- 13 黒褐色土 焼土ブロックを中量、炭化物を少量含む。  
しまり・粘性普通。
- 14 暗褐色土 ロームブロックを多量、焼土粒を微量含む。  
しまり・粘性普通。
- 15 暗褐色土 ローム粒を多量含む。しまり・粘性普通。

第36号住居跡炉跡土層解説 (36Y : C-C')

- 1 暗褐色土 焼土粒を多量、ローム粒を少量含む。  
しまり強く、粘性普通。
- 2 暗黄褐色土 ローム粒を多量含む。  
しまり・粘性普通。



第14図 第36号住居跡 (36Y : 1/30、1/60)

## 第36号住居跡 (36Y) (第14・15図)

[位置] 調査区南部

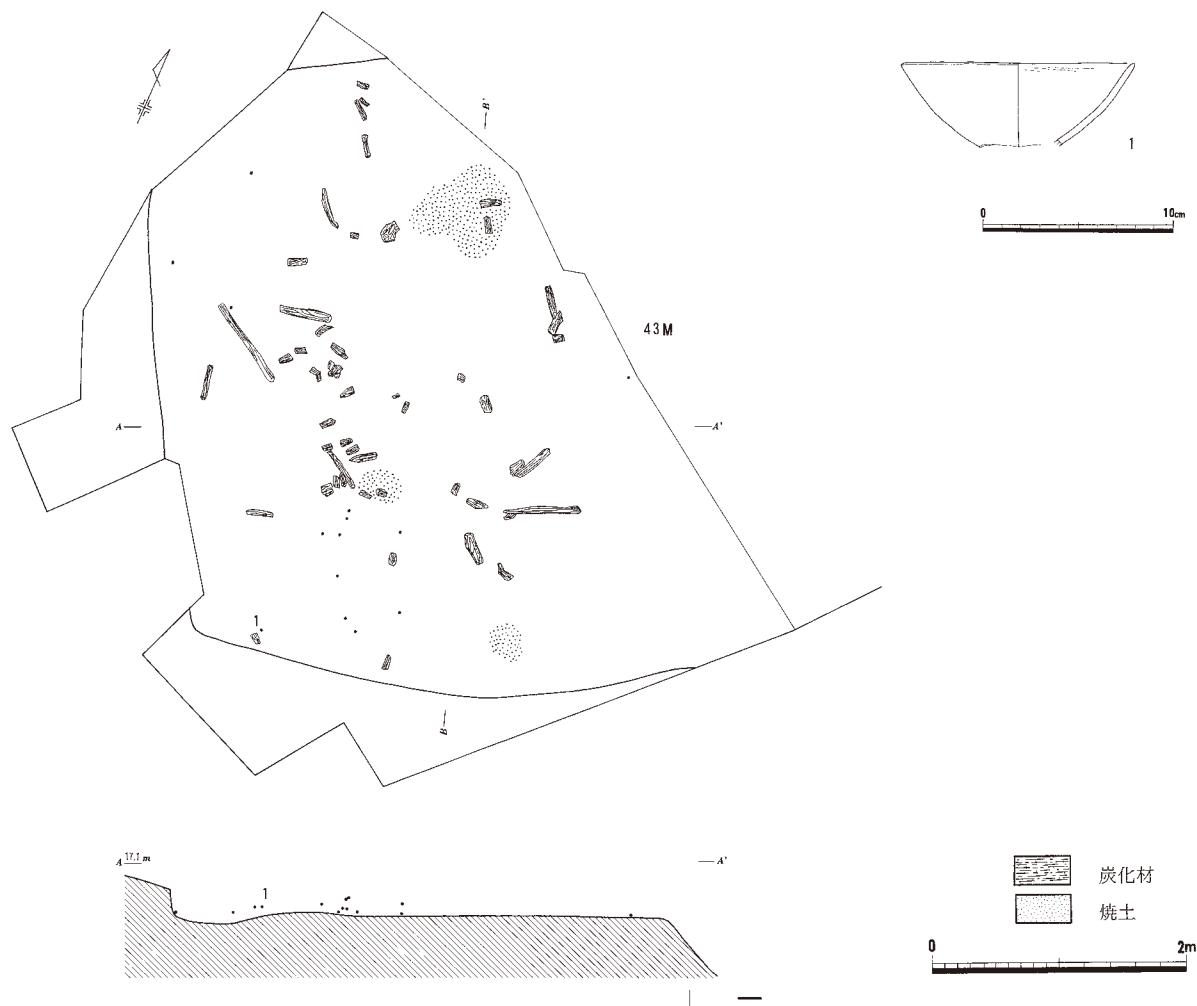
[構造] (平面形) 隅丸長方形 (規模) 住居跡東部が第43号溝 (43M) に掘り込まれているため、長軸5.0m、短軸4.7m以上である。(主軸方位) N - 64° - E (壁高) 床面から12~29cmを測る。(床) 凹凸がある。(炉) 地床炉。住居跡東部に位置し、東半部は第43号溝 (43M) に掘り込まれている。確認できる範囲で規模は長径65cm、短径42cm以上の楕円形を呈する。炉床面は、火熱を受けて赤変硬化している。(柱穴) 確認された主柱穴はP 1で、深さ34cmを測る。P 2~P 5は性格不明のピットで、深さ5~21cmを測る。

[覆土] 黒褐色土を基調とし、15層に分層される。

[遺物出土状況] 住居跡西部及び南部を中心に覆土中層から下層にかけて出土している。1は住居跡南コーナー部の覆土中層から出土している。また、住居跡全体の覆土下層から焼土塊や炭化材が検出された。

[時期] 弥生時代後期

[備考] 本跡は、第43号溝 (43M) に掘り込まれている。



第15図 第36号住居跡及び出土遺物 (36Y : 1/60, 1/4)

## 第4節 古墳時代の遺構と遺物

### 第58号土坑 (58HD) (第17図)

[位置] 調査区北東部

[構造] 規模は長軸105cm、短軸68cm、深さ50cmを測る。主軸方位はN-88°-W。平面形は隅丸長方形を呈し、底部は段を有する。

[覆土] 淡暗褐色土を基調とし、9層に分層される。

[遺物出土状況] 覆土上層から下層にかけてまとまとした状態で出土している。1は中央部及び東部の覆土上層から、2は西部の覆土上層から中層にかけてそれぞれ出土している。

[時期] 古墳時代後期（7世紀前葉）

[備考] 覆土の堆積状況から、掘立柱建物跡の柱穴の可能性がある。

### 第63号土坑 (63HD) (第17図)

[位置] 調査区西部

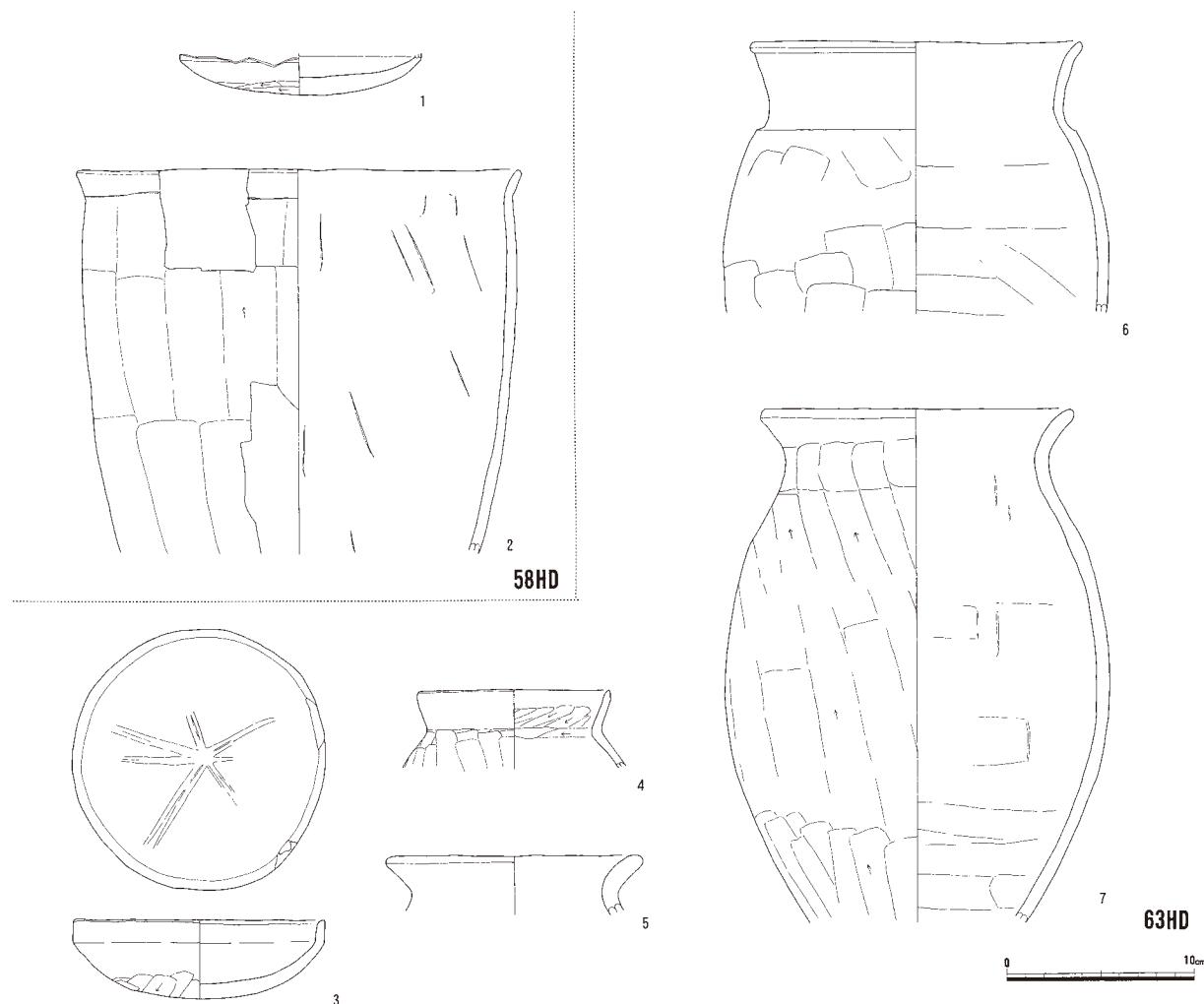
[構造] 規模は長軸133cm、短軸79cm、深さ63cmを測る。主軸方位はN-64°-E。平面形は隅丸長方形を呈する。

[覆土] 黒褐色土を基調とし、3層に分層される。

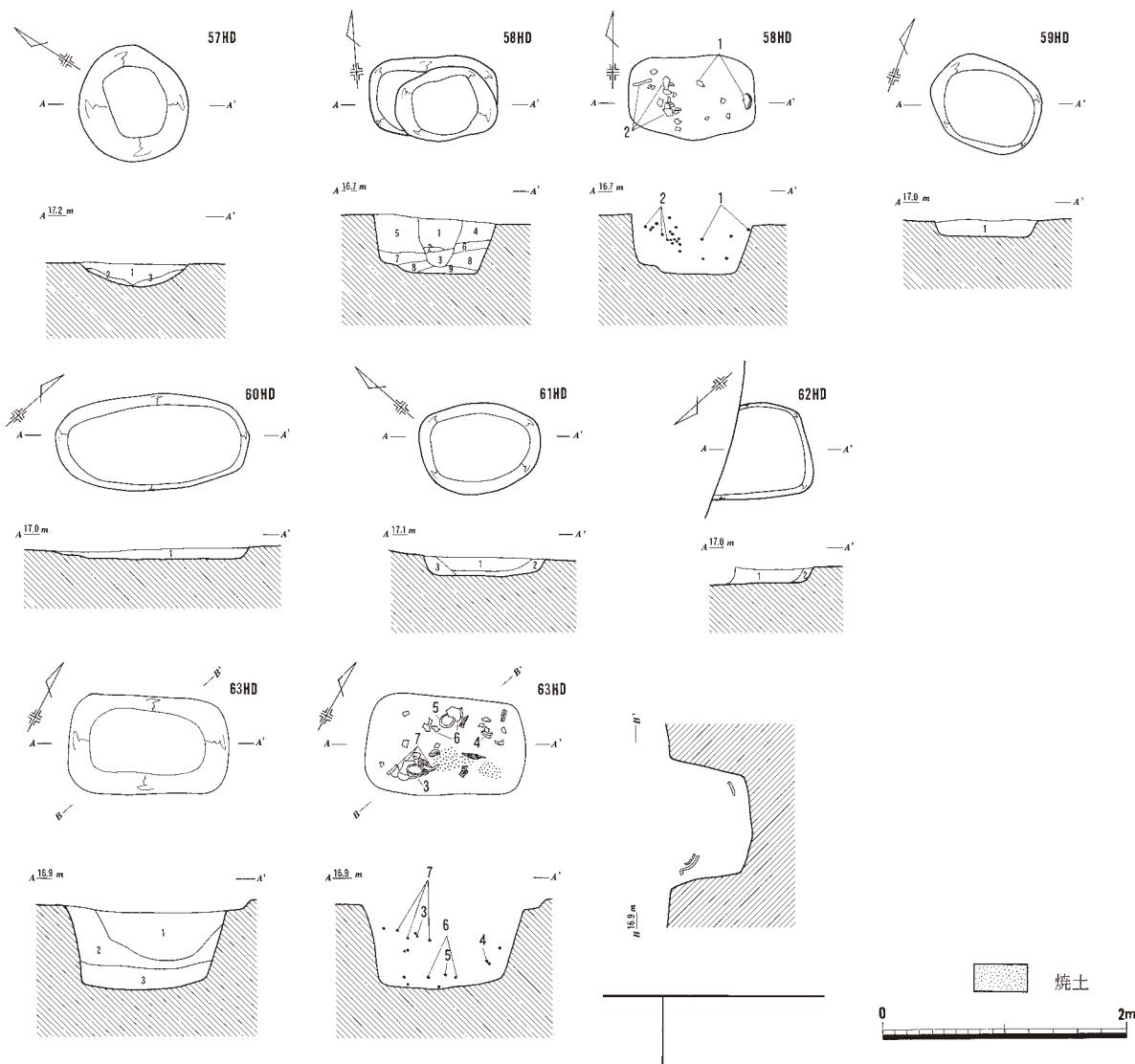
[遺物出土状況] 覆土上層から下層にかけて、土器片が流れ込むような状態でまとまって出土している。また、焼土塊や炭化材も出土した。

[時期] 古墳時代後期（7世紀前葉）

[備考] 本跡は、第35号住居跡（35Y）を掘り込んでいる。



第16図 第58・63号土坑出土遺物 (58HD・63HD: 1/4)



第57号土坑土層解説 (57HD : A-A')

- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む。  
しまりやや強く、粘性普通。  
2 淡褐色土 ローム粒を多量含む。  
しまりやや強く、粘性普通。  
3 淡暗褐色土 ローム粒を多量含む。しまり・粘性普通。

第58号土坑土層解説 (58HD : A-A')

- 1 淡赤暗褐色土 焼土粒を多量、ローム粒を少量、炭化粒を微量含む。しまりやや強く、粘性普通。  
2 暗黄褐色土 ローム粒を多量含む。  
しまりやや強く、粘性普通。  
3 暗黄褐色土 ローム粒を多量、炭化粒を微量含む。  
しまりやや強く、粘性普通。  
4 淡赤暗褐色土 ローム粒・焼土粒、炭化物を微量含む。  
しまりやや強く、粘性普通。  
5 淡暗褐色土 ローム粒を微量含む。  
しまりやや強く、粘性普通。  
6 黄褐色土 ローム粒を多量含む。  
しまり強く、粘性普通。  
7 淡暗黄褐色土 ローム粒を多量含む。  
しまり強く、粘性普通。  
8 淡暗黄褐色土 ローム粒を多量、炭化粒を微量含む。  
しまり強く、粘性普通。  
9 黄褐色土 ローム粒を多量含む。  
しまり強く、粘性普通。

第59号土坑土層解説 (59HD : A-A')

- 1 黒褐色土 炭化粒を少量、ローム粒を微量含む。  
しまり・粘性普通。

第60号土坑土層解説 (60HD : A-A')

- 1 黒褐色土 炭化粒を少量、ローム粒を微量含む。  
しまり・粘性普通。

第61号土坑土層解説 (61HD : A-A')

- 1 暗褐色土 ローム粒を微量含む。しまり強く、粘性普通。  
2 暗褐色土 ローム粒を少量含む。しまり強く、粘性普通。  
3 淡暗褐色土 ローム粒を多量含む。しまり強く、粘性普通。

第62号土坑土層解説 (62HD : A-A')

- 1 暗褐色土 ローム粒を少量含む。  
しまり強く、粘性普通。  
2 暗褐色土 ローム粒を多量含む。  
しまりやや強く、粘性普通。

第63号土坑土層解説 (63HD : A-A')

- 1 黒褐色土 焼土ブロックを多量、ロームブロックを中量、炭化物を少量含む。しまり・粘性普通。  
2 黒褐色土 ロームブロックを少量含む。  
しまり・粘性普通。  
3 暗褐色土 ロームブロックを中量、炭化材・焼土粒を少量含む。しまり・粘性普通。

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	土師器 壺	—	—	(1.1)	黄褐色	石英 砂粒 長石 小礫	底面: ヘラ削り
2	土師器 甌	23.6	—	(20.2)	黄褐色	石英 長石 角閃石 赤色粒子	外表面: ヘラ削り 内面: ヘラナデ

※ ( ) は現存の寸法

第12表 第58号土坑 (58HD) 出土土器観察表

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
3	土師器 壺	13.3	—	4.2	暗褐色	石英 砂粒 角閃石 赤色粒子	底面: ヘラ削り 内面: 暗文
4	土師器 甌	10.2	—	(4.1)	黒褐色	石英 砂粒 長石	外内表面: ヘラ削り
5	土師器 甌	13.6	—	(3.1)	黒褐色	石英 砂粒 雲母	外内表面: ナデ
6	土師器 甌	17.4	—	(14.3)	黄褐色	石英 砂粒 小礫	外表面: ヘラ削り 内面: ヘラナデ
7	土師器 甌	16.5	—	(27.0)	橙色	石英 角閃石 雲母 砂粒	外表面: ヘラ削り 内面: ヘラナデ

※ ( ) は現存の寸法

第13表 第63号土坑 (63HD) 出土土器観察表

## 第5節 平安時代の遺構と遺物

### 第48号住居跡 (48H) (第18図)

[位置] 調査区東部

[構造] (平面形) 隅丸方形か (規模) 住居跡東部と南部が削平されているため、確認できる範囲で長軸 3.0 m 以上、短軸 2.7 m 以上である。(主軸方位) N - 25° - W (壁高) 床面から約 6 cm を測る。(床) やや凹凸がある。(カマド) 北西壁中央部に付設され、掘方が確認された。規模は焚口部から煙道部まで 126 cm で、燃焼部幅は 75 cm である。煙道部は壁外に 61 cm 剥離されている。

[覆土] 暗褐色土を基調とし、3層に分層される。

[遺物出土状況] 住居跡中央部の覆土下層から 1 が逆位で出土している。

[時期] 9世紀前半

[備考] 本跡は、第57号土坑 (57HD) に掘り込まれている。

### 第49号住居跡 (49H) (第19図)

[位置] 調査区西部

[構造] (平面形) 隅丸方形か (規模) 住居跡南半部が削平されているため、確認できる範囲で長軸 3.0 m 以上、短軸 2.8 m 以上である。(主軸方位) N - 50° - W (壁高) 床面から 17 cm を測る。(床) 凹凸がある。(柱穴) 確認された主柱穴は P 1 で、深さ 17 cm を測る。P 2 は性格不明のピットで、深さ 2 cm を測る。

[覆土] 暗色土を基調とし、9層に分層される。

[遺物出土状況] 覆土中から散在して土器片が出土している。

[時期] 平安時代

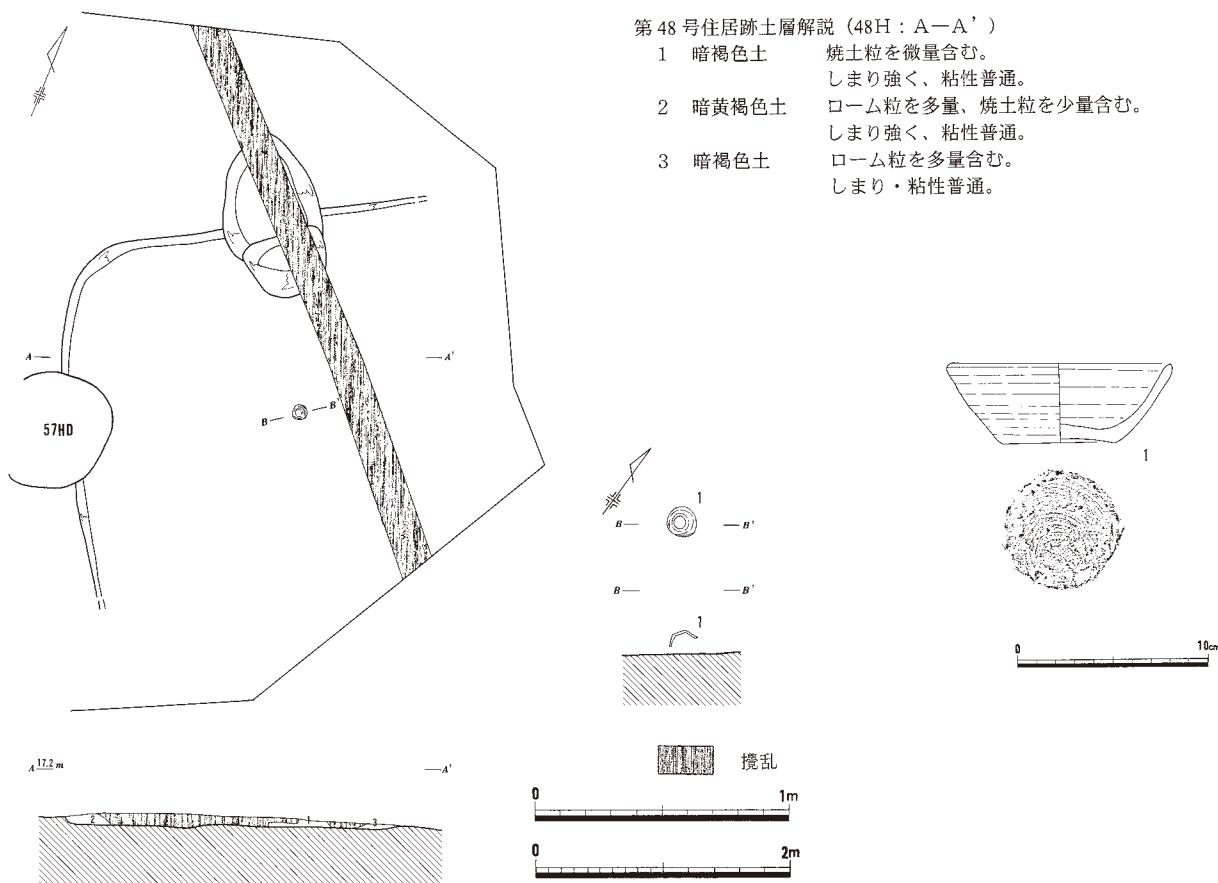
No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	須恵器 壺	11.8	5.9	4.2	灰色	石英 砂粒 小礫	外内表面: ロクロ成形 底面: 回転糸切り痕

第14表 第48号住居跡 (48H) 出土土器観察表

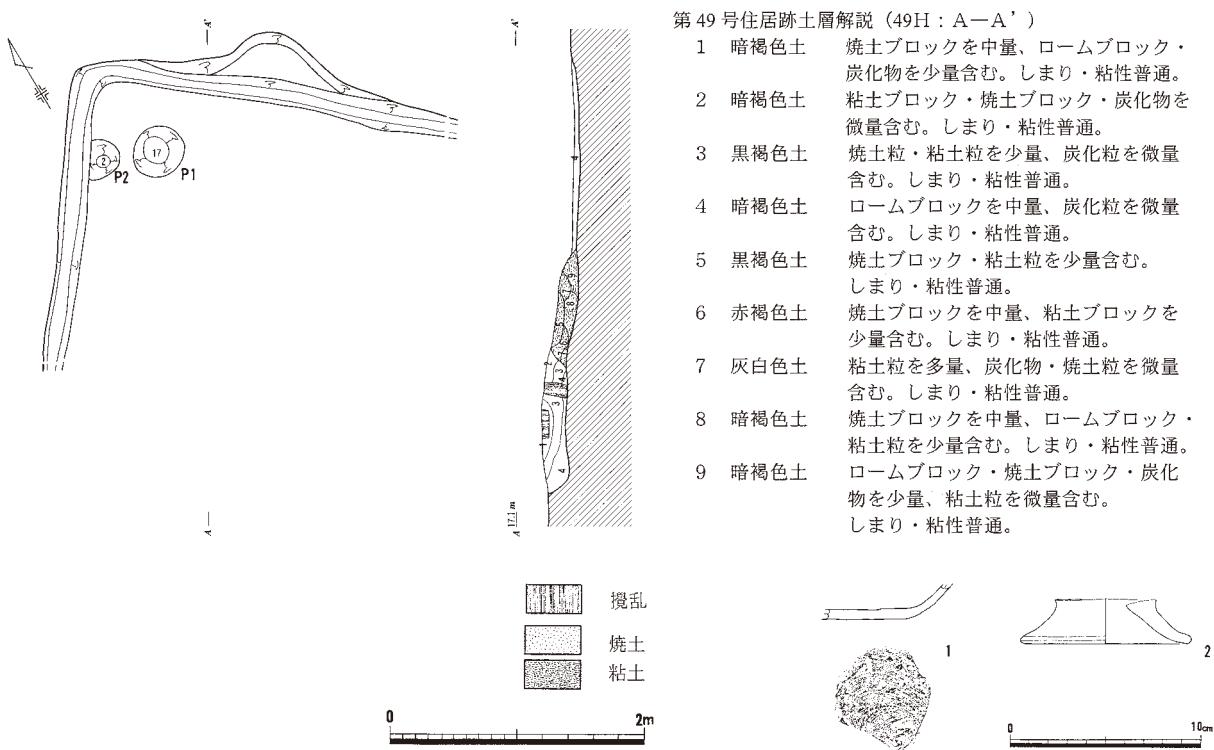
No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	須恵器 壺	—	—	(1.8)	灰色	石英 砂粒 長石	外内表面: ロクロ成形 底面: 回転糸切り痕
2	土師器 台付甌 脚部	—	8.9	(2.3)	暗褐色	石英 砂粒	外内表面: ナデ

※ ( ) は現存の寸法

第15表 第49号住居跡 (49H) 出土土器観察表



第18図 第48号住居跡及び出土遺物 (48H : 1/30、1/60、1/4)



第19図 第49号住居跡及び出土遺物 (49H : 1/60、1/4)

## 第6節 その他の遺構と遺物

### 1. 土坑

#### 第57号土坑 (57HD) (第17図)

[位置] 調査区東部

[構造] 規模は長径95cm、短径89cm、深さ18cmを測る。

主軸方位はN - 42° - E。平面形は円形を呈する。

[覆土] 暗褐色土を基調とし、3層に分層される。

[遺物出土状況] 少量の土器片が出土しているが、細片のため、図化できなかった。

[時期] 時期不明

[備考] 本跡は、第48号住居跡 (48H) を掘り込んでいる。

#### 第59号土坑 (59HD) (第17図)

[位置] 調査区北西部

[構造] 規模は長径92cm、短径70cm、深さ14cmを測る。

主軸方位はN - 88° - W。平面形は橢円形を呈する。

[覆土] 黒褐色土を基調とした単一層である。

[遺物出土状況] 出土遺物は皆無であった。

[時期] 時期不明

#### 第60号土坑 (60HD) (第17図)

[位置] 調査区北西部

[構造] 規模は長径159cm、短径76cm、深さ8cmを測る。主軸方位はN - 40° - E。平面形は橢円形を呈する。

[覆土] 黒褐色土を基調とした単一層である。

[遺物出土状況] 出土遺物は皆無であった。

[時期] 時期不明

#### 第61号土坑 (61HD) (第17図)

[位置] 調査区北西部

[構造] 規模は長径98cm、短径73cm、深さ15cmを測る。

主軸方位はN - 43° - W。平面形は橢円形を呈する。

[覆土] 暗褐色土を基調とし、3層に分層される。

[遺物出土状況] 出土遺物は皆無であった。

[時期] 時期不明

#### 第62号土坑 (62HD) (第17図)

[位置] 調査区西北部

[構造] 確認できた範囲で、規模は長軸83cm、短軸76cm、深さ12cmを測る。主軸方位はN - 38° - E。平面形は長方形を呈する。

[覆土] 暗褐色土を基調とし、2層に分層される。

[遺物出土状況] 出土遺物は皆無であった。

[時期] 時期不明

[備考] 第32号住居跡 (32Y) と重複しているが、新旧関係は不明である。

### 2. 溝跡

#### 第42号溝跡 (42M) (第20図)

[位置] 調査区南西部

[構造] (開口部幅) 1.2m ~ 2.2m (壁高) 底部から約20cmを測り、垂直気味に立ち上がる。(底部) 凹凸している。

[覆土] 黒褐色土を基調とした単一層である。なお、図中の第6層が本跡の覆土に該当する。

[遺物出土状況] 土器片が少量出土しているが、細片のため図化できなかった。

[時期] 江戸時代

[備考] 本跡は第43号溝 (43M) に掘り込まれている。

#### 第43号溝跡 (43M) (第20図)

[位置] 調査区南西部

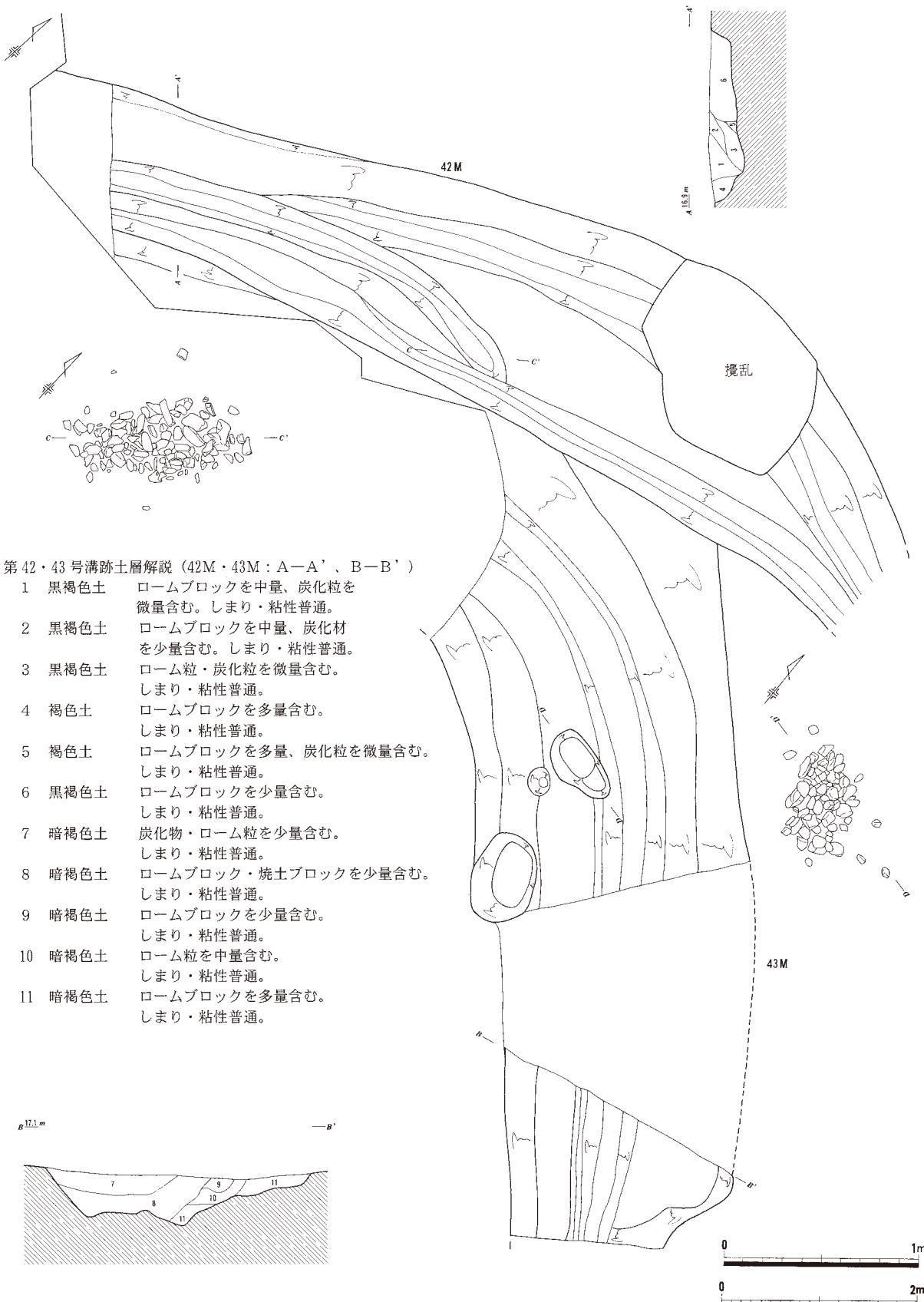
[構造] (開口部幅) 1.6m ~ 3.1m (壁高) 底部から12 ~ 46cmを測り、緩やかに立ち上がる。(底部) 凹凸している。

[覆土] 暗褐色土を基調とし、10層に分層される。なお、図中の第1 ~ 5・7 ~ 11層が本跡の覆土に該当する。

[遺物出土状況] 二か所の集石が確認された。それぞれの集石からは縄文時代の石器や江戸時代の石製品、陶磁器類がまとまった状態で出土しており、一括で廃棄されたものと考えられる。

[時期] 江戸時代

[備考] 本跡は第42号溝跡を掘り込んでいる。



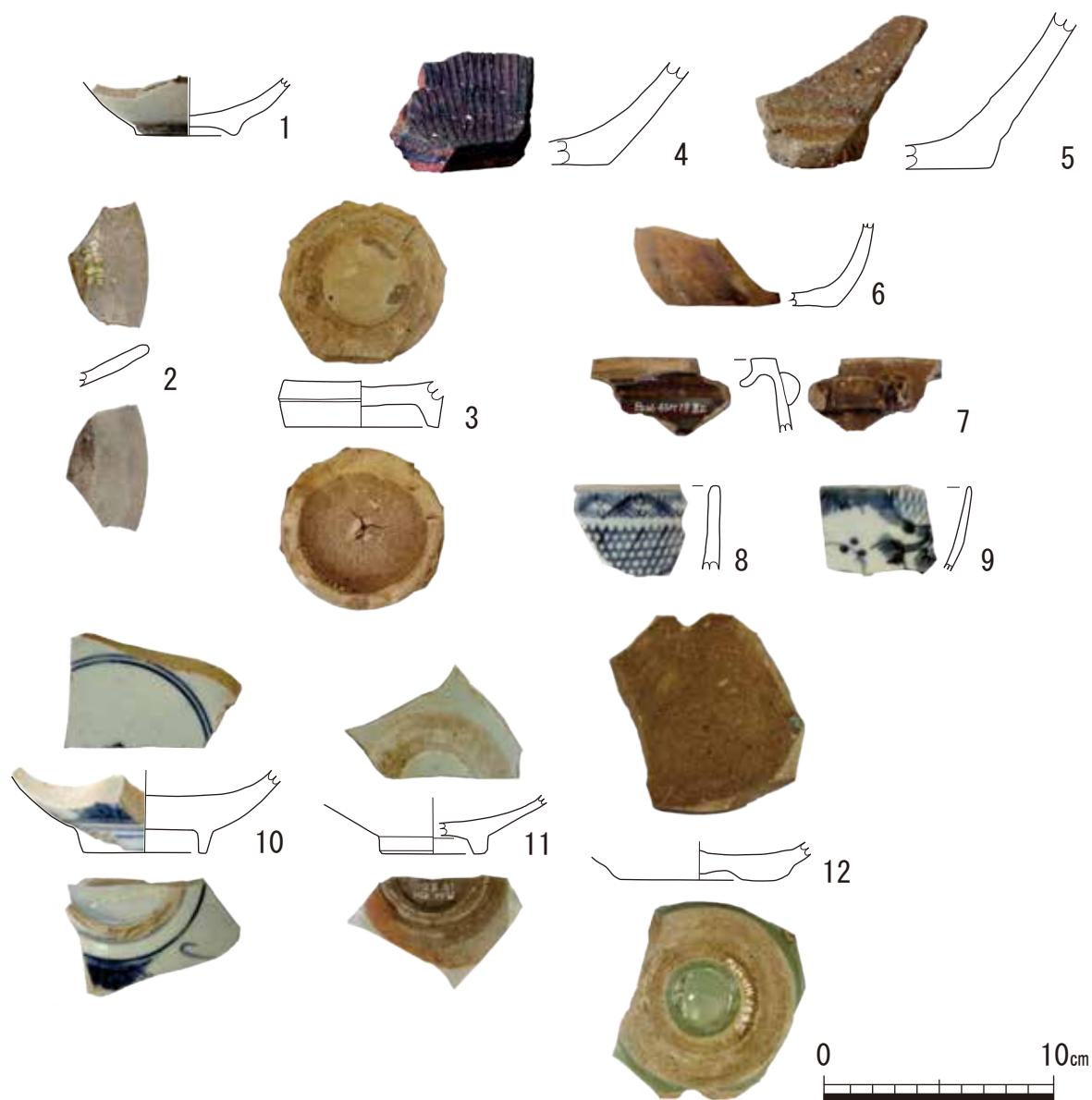
第20図 第42・43号溝跡 (42M・43M : 1/30, 1/60)



第21図 第43号溝跡出土石器・石製品 (43M: 1/4)

No.	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ・高さ (cm)	重量 (g)	材質	備考
1	打製石斧	11.5	5.9	2.2	154.7	砂岩か	—
2	打製石斧	11.5	6.0	3.7	268.3	ホルンフェルス	—
3	打製石斧	(9.6)	7.0	2.8	233.6	砂岩	基部欠損
4	磨製石斧	(9.8)	5.4	2.5	211.2	緑色泥岩	刃部磨き顕著
5	敲石	(6.1)	7.1	3.4	186.4	閃緑岩	—
6	石皿	(8.9)	(10.2)	6.0	314.1	多孔質安山岩	裏面凹石
7	砥石	(5.2)	4.2	2.6	64.9	凝灰岩	砥面4面
8	石鉢	—	—	(6.3)	171.0	安山岩	—
9	石鉢	—	—	(5.5)	245.4	砂岩	—
10	打製石斧	11.0	6.4	2.3	166.3	凝灰岩か	—
11	砥石	9.4	3.6	1.9	69.8	砂岩	砥面2面
12	砥石	7.9	4.3	3.4	121.0	砂岩	砥面4面 被熱痕・穿孔痕あり

第16表 第43号溝跡 (43M) 出土石器・石製品観察表



第22図 第43号溝跡出土陶磁器 (43M: 1/3)

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	釉薬	備考
1	陶器 小碗	—	4.4	(2.5)	灰白色	灰釉	疊付無釉、高台貼付
2	陶器 小皿	—	—	(1.9)	灰白色	灰釉	外面体部下端無釉、見込無釉
3	陶器 皿・鉢類	—	6.8	(2.0)	黄褐色	灰釉か	見込蛇目釉剥ぎ、高台貼付、疊付無釉
4	陶器 擂鉢	—	—	(4.4)	赤褐色	無釉	内面擂目、外面体部下端ヘラ削り
5	陶器 擂鉢か	—	—	(6.8)	赤褐色	無釉	内面擦痕顯著、外面体部下端ヘラ削り
6	陶器 鉢類	—	—	(3.6)	橙色	鉄釉	外面体部下端ヘラ削り
7	陶器 水注か	—	—	(3.3)	黄褐色	飴釉	口縁部受部無釉、外内面施釉
8	磁器 筒形碗	—	—	(3.7)	白色	透明釉	染付、肥前系
9	磁器 小碗	—	—	(3.7)	白色	透明釉	染付、肥前系
10	磁器 中碗	—	—	(3.6)	白色	透明釉	染付、肥前系
11	磁器 小皿	—	4.6	(2.5)	白色	透明釉	見込蛇目釉剥ぎ、削り出し高台
12	青磁 鉢類	—	7.7	(1.7)	白色	青磁釉	蛇目高台、見込砂目

※ ( ) は現存の寸法

第17表 第43号溝跡 (43M) 出土陶磁器観察表

## 第3章 谷津遺跡第42地点

### 第1節 遺跡の概要

#### 1. 遺跡の立地と調査地点の概要

谷津遺跡は、市域のほぼ中央に位置する。標高は19~21mを測る。遺跡南側は、大きく蛇行して流れる権平川によって開析された小支谷を臨んでいる。そのため谷津遺跡の東南西の三方は画され、遺跡は舌状台地上に立地する。権平川は三芳町大字藤久保字富士塚付近を水源として、大きく蛇行しながら東に向かって流れしており、谷津遺跡、黒貝戸遺跡、殿山遺跡、御庵遺跡の間を縫うように流れた先の低地部で江川と合流している。

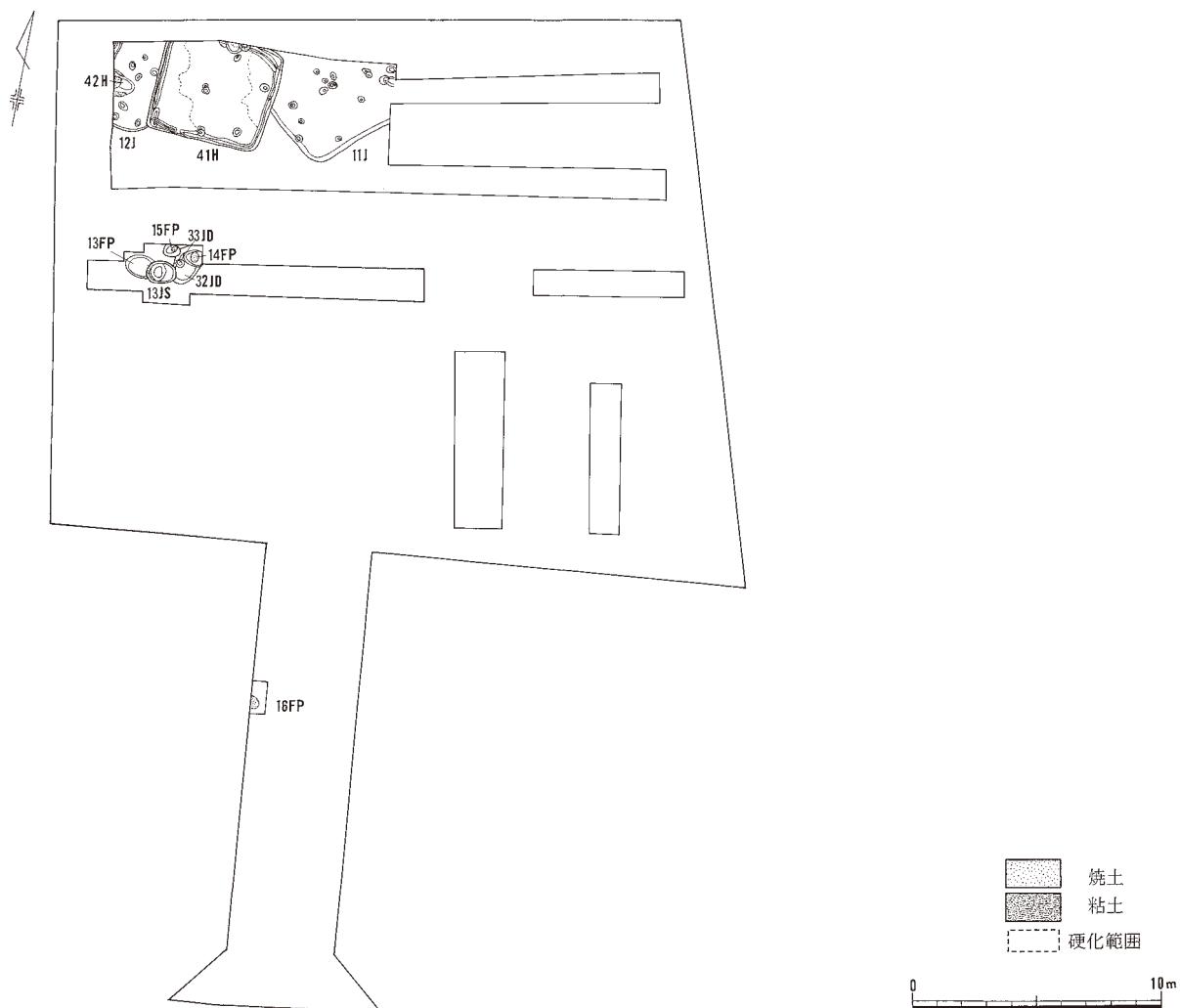
谷津遺跡の北に宮脇遺跡、北東に黒貝戸遺跡が隣接し、南の権平川の対岸には御庵遺跡が立地している。

谷津遺跡は旧石器時代から近世にわたって遺構が検出される複合遺跡である。主に旧石器時代の石器集中地点や縄文時代早期~中期の住居跡、古代の住居跡が検出されている。

#### 2. 発掘調査の経過

本地点は分譲住宅建設に伴い、平成27年4月27日に試掘調査を実施した。その結果、縄文時代早期の住居跡2軒(11J・12J)、炉穴4基(13~16FP)、集石1基(1FP)、土坑2基(32JD・33JD)、奈良時代の住居跡2軒(41H・42H)が検出された。

検出された遺構の深度から、工事の掘削等による影響が遺構に及び、十分な保護層を確保できない見込みであった。そのため、記録保存を目的とした発掘調査を平成27年5月13日~22日に実施した。



第23図 谷津遺跡第42地点遺構配置図 (1/300)

## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

### 1. 壇穴住居跡

#### 第11号住居跡 (11J) (第25図)

[位置] 調査区北西部

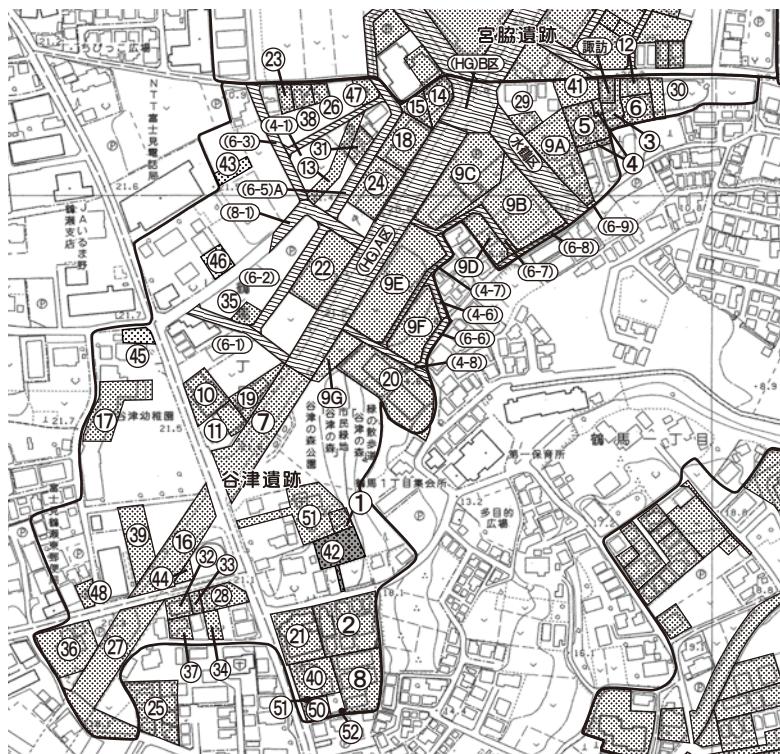
[構造] (平面形) 隅丸方形か (規模) 住居跡北部と東部が調査区域外へ延び、住居跡西部が第41号住居 (41 H) に掘り込まれているため、確認できる範囲で長軸5.9m以上、短軸4.8m以上である。(長軸方位) N - 33° - E (壁高) 床面から12~24cmを測る。(床) やや凹凸がある。(柱穴) P 1 ~ P15 の深さは8~22cmを測る。

[覆土] 暗褐色土を基調とし、2層に分層される。

[遺物出土状況] 住居跡全体の覆土上層から下層にかけて散在して土器片が出土している。

[時期] 繩文時代前期か

[備考] 第41号住居 (41H) に掘り込まれている。



第24図 谷津遺跡第42地点 (1/5000)

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	縄文土器 深鉢	-	-	(4.8)	暗褐色	石英 白色粒子 植物繊維	単節縄文 RL
2	縄文土器 深鉢	-	-	(4.5)	橙色	石英 砂粒 白色粒子 植物繊維	単節縄文 LR

※ ( ) は現存の寸法

第18表 第11号住居跡 (11 J) 出土土器観察表

#### 第12号住居跡 (12J) (第26図)

[位置] 調査区北西部

[構造] (平面形) 楕円形か (規模) 住居跡西部が第42号住居 (42 H) に掘り込まれ、住居跡北部が調査区域外へ延び、住居跡東部が第41号住居 (41 H) に掘り込まれているため、確認できる範囲で、長径3.8m以上×短径2.2m以上である。(長軸方位) N - 6° - E (壁高) 床面から約20cmを測る。(床) やや凹凸がある。(柱穴) P 1 ~ P 7 の深さは7~25cmを測る。

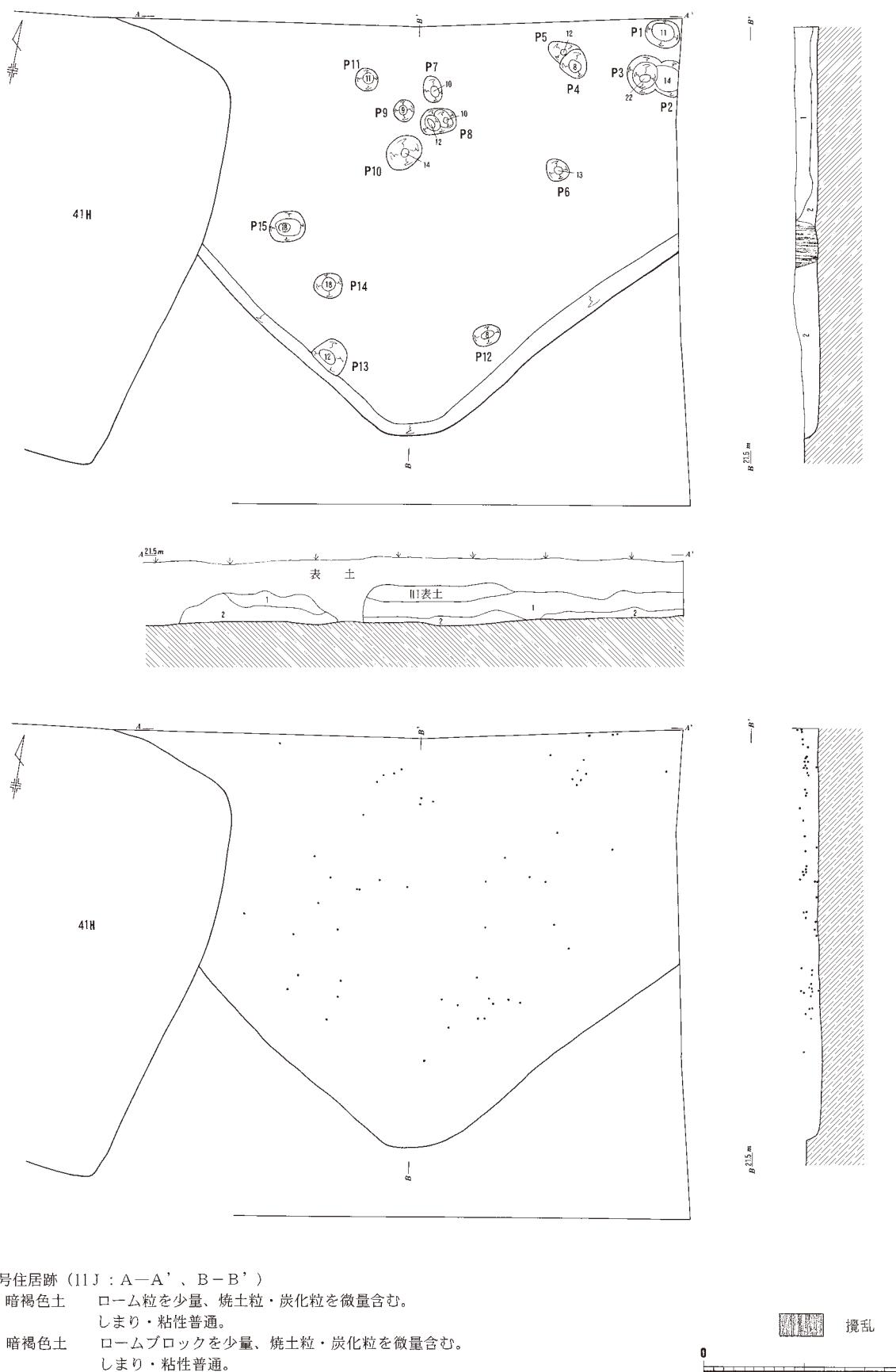
[覆土] 暗褐色土を基調とし、2層に分層される。

[遺物出土状況] 覆土中から土器片が散在して出土し

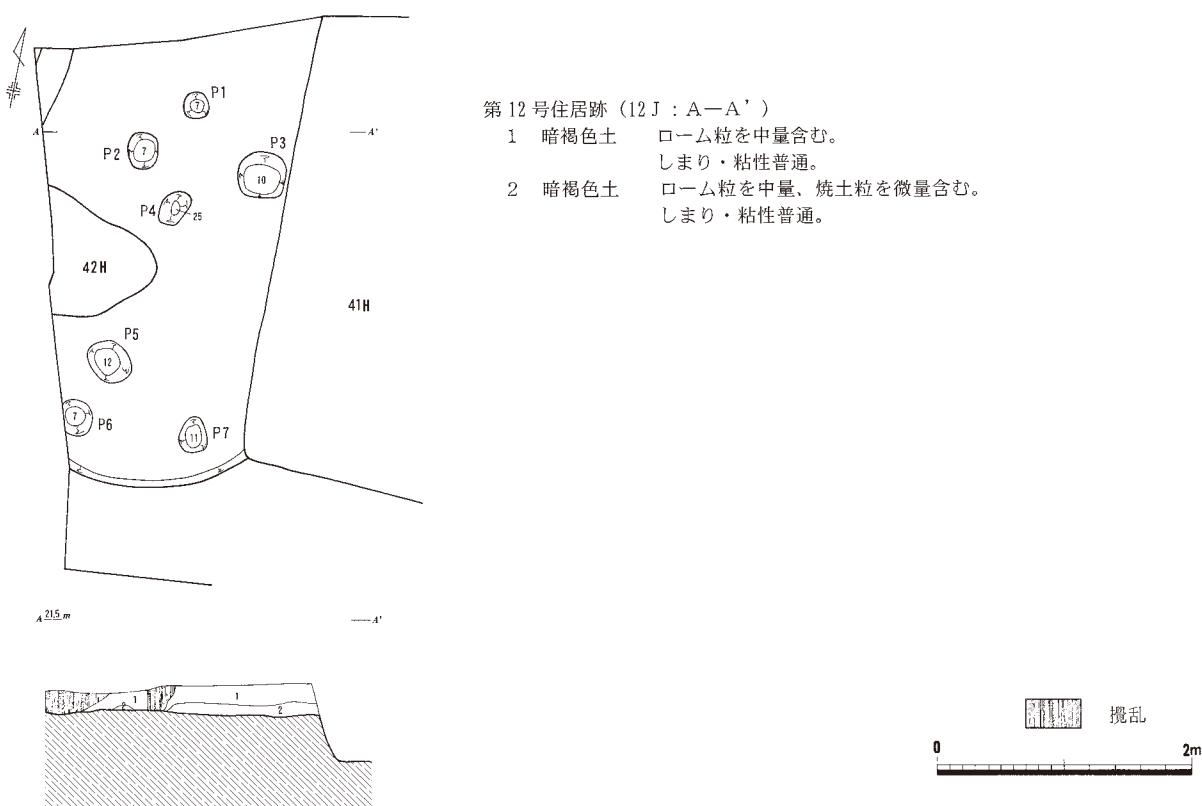
ている。

[時期] 繩文時代前期か

[備考] 第41・42号住居 (41H・42 H) に掘り込まれている。



第25図 第11号住居跡 (11J : 1/60)

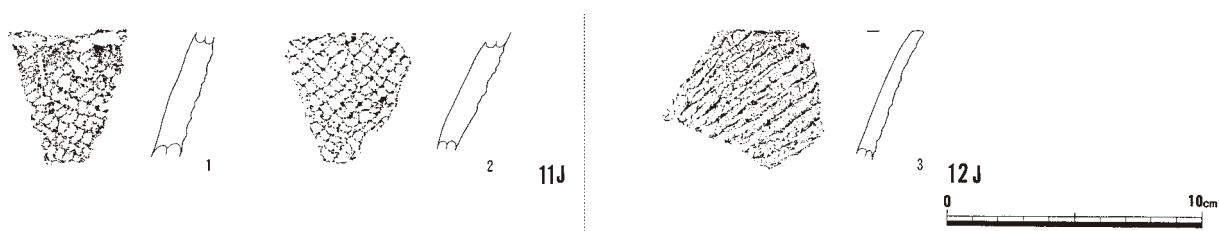


第26図 第12号住居跡 (12 J : 1/60)

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
3	縄文土器 深鉢	—	—	(5.0)	黄褐色	石英 小礫 白色粒子 植物繊維	無節縄文

※ ( ) は現存の寸法

第19表 第12号住居跡 (12 J) 出土土器観察表



第27図 第11・12号住居跡出土遺物 (11 J・12 J : 1/3)

## 2. 炉穴

### 第13号炉穴 (13FP) (第28図)

[位置] 調査区西部

[構造] (平面形) 楕円形 (規模) 東部が第13号集石 (13JS) に掘り込まれているため、確認できる範囲で長径105cm×短径91cmである。(主軸方位) N-72°-W (火焚部) 遺構確認面からの深さは11cmで、皿状を呈し、底面は火熱を受けて赤変硬化している。

[覆土] 暗褐色土を基調とし、2層に分層される。

[遺物出土状況] 土器片が覆土中から散在して出土している。細片の為、図化できなかった。

[時期] 繩文時代早期

[備考] 第13号集石 (13JS) に掘り込まれている。

### 第14号炉穴 (14FP) (第28図)

[位置] 調査区西部

[構造] (平面形) 楕円形 (規模) 東部が調査区域外へ延びているため、確認できる範囲で長径74cm、短径72cmである。(主軸方位) N-77°-W (火焚部) 底面は火熱を受けて赤変硬化している。

[遺物出土状況] 被熱した礫や土器片が覆土中から散在して出土している。細片の為、図化できなかった。

[時期] 繩文時代早期

[備考] 第32号土坑 (32JD) との新旧関係は不明である。

### 第15号炉穴 (15FP) (第28図)

[位置] 調査区西部

[構造] (平面形) 楕円形 (規模) 北東部が調査区域外へ延びているため、確認できる範囲で長径65cm、短径52cmである。(主軸方位) N-65°-E (火焚部) 底面は火熱を受けて赤変硬化している。

[遺物出土状況] 磥が散在して出土し、土器片は皆無であった。

[時期] 繩文時代早期

[備考] 第32号土坑 (32JD) との新旧関係は不明である。

### 第16号炉穴 (16FP) (第23図)

[位置] 調査区南部

[構造] (平面形) 楕円形 (火焚部) 底面は火熱を受けて赤変硬化している。

[遺物出土状況] 遺物は皆無であった。

[時期] 繩文時代早期

## 3. 集石

### 第13号集石 (13JS) (第28図)

[位置] 調査区西部

[構造] 掘り込みの規模は長径113cm×短径85cm×深さ28cmを測る。主軸方位はN-44°-E。平面形は楕円形を呈する。

[覆土] 黒褐色土を基調とし、4層に分層される。

[遺物出土状況] 出土した礫の総数は133個で総重量は3.2kgを測り、その内被熱した礫の個数は25個で重量0.6kgを測る。また、覆土中からは縄文土器片が少量出土したが、細片の為図化できなかった。

[時期] 繩文時代

[備考] 第13号炉穴 (13FP)・第32号土坑 (32JD) を掘り込んでいる。

## 4. 土坑

### 第32号土坑 (32JD) (第28図)

[位置] 調査区西部

[構造] (平面形) 楕円形 (規模) 長径1.6m以上×短径1.0m (主軸方位) N-22°-E (壁高) 床面から16cmを測る。

[覆土] 褐色土を基調とした単一層である。

[遺物出土状況] 磥が散在して出土し、土器片は皆無であった。

[時期] 繩文時代

[備考] 第13号集石 (13JS) に掘り込まれ、第14号炉穴 (14FP) と第15号炉穴 (15FP)、第33号土坑 (33JD) との新旧関係は不明である。

### 第33号土坑 (33JD) (第28図)

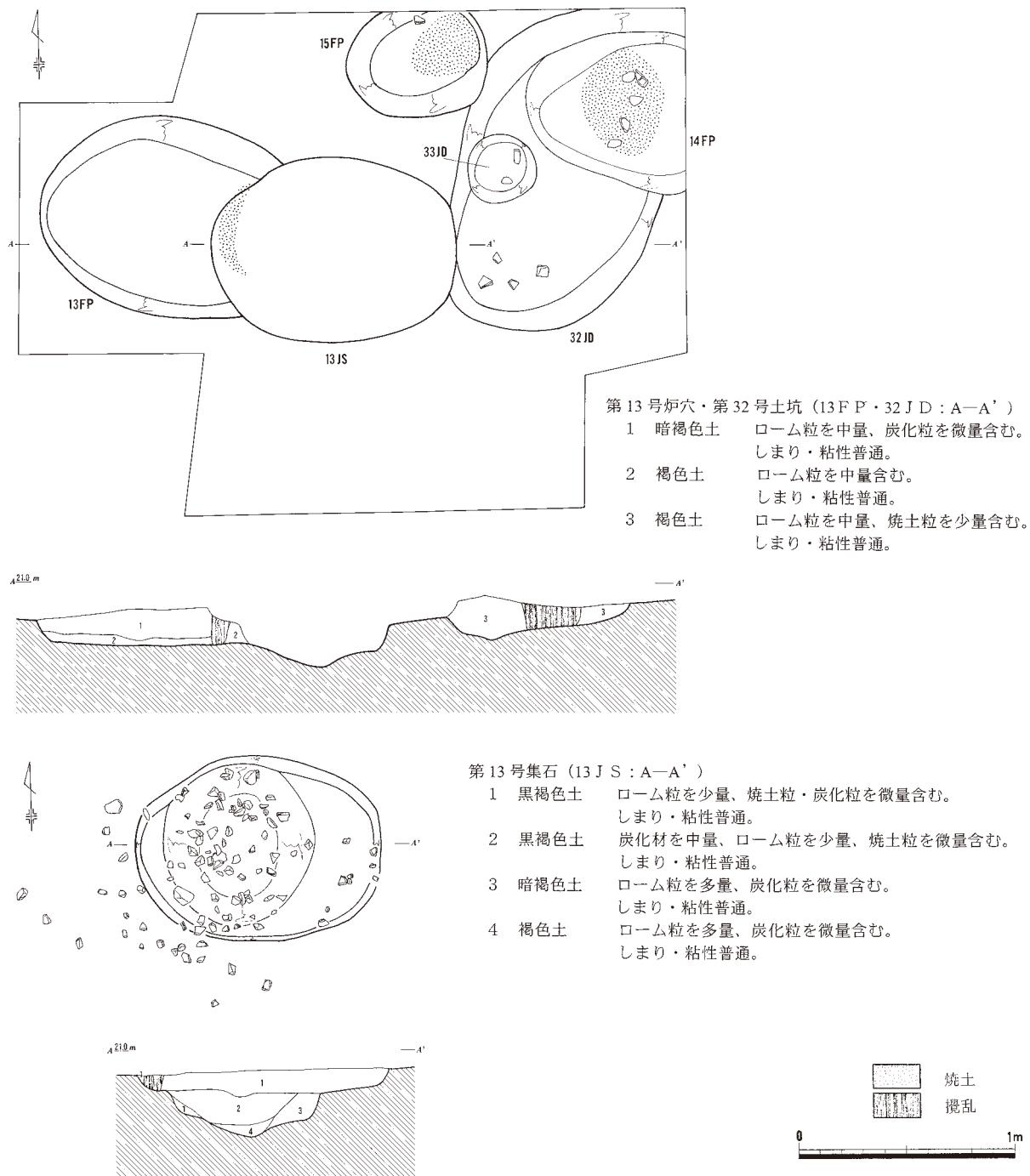
[位置] 調査区西部

[構造] (平面形) 円形 (規模) 径約0.3m

[遺物出土状況] 土器片が散在して出土している。細片の為、図化できなかった。

[時期] 繩文時代

[備考] 第32号土坑 (32JD) との新旧関係は不明である。



第28図 第13～15号炉穴、第13号集石、第32・33号土坑 (13～15FP, 13JS, 32JD・33JD : 1/30)

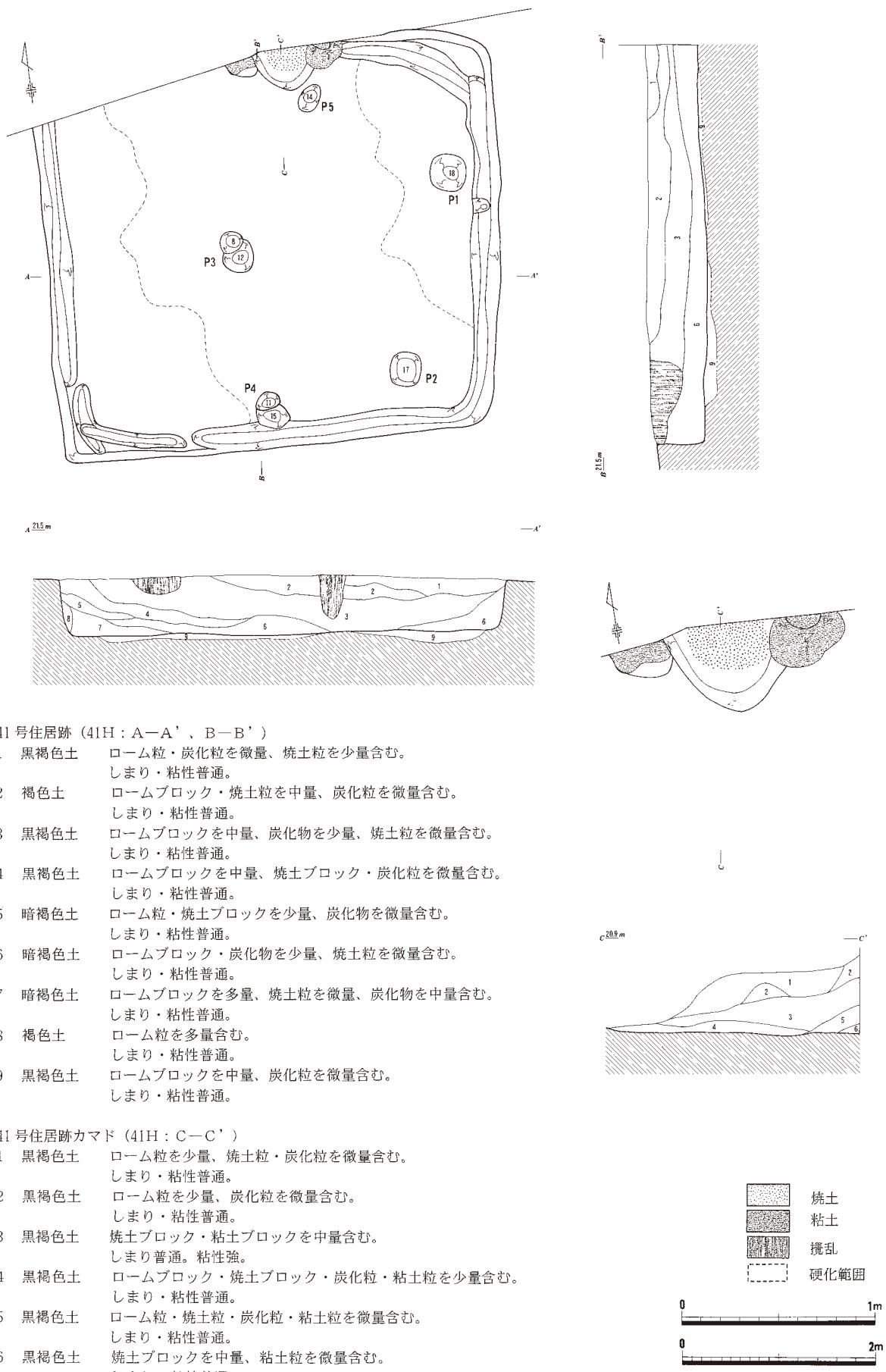
### 第3節 古代の遺構と遺物

#### 第41号住居跡 (41H) (第29・30図)

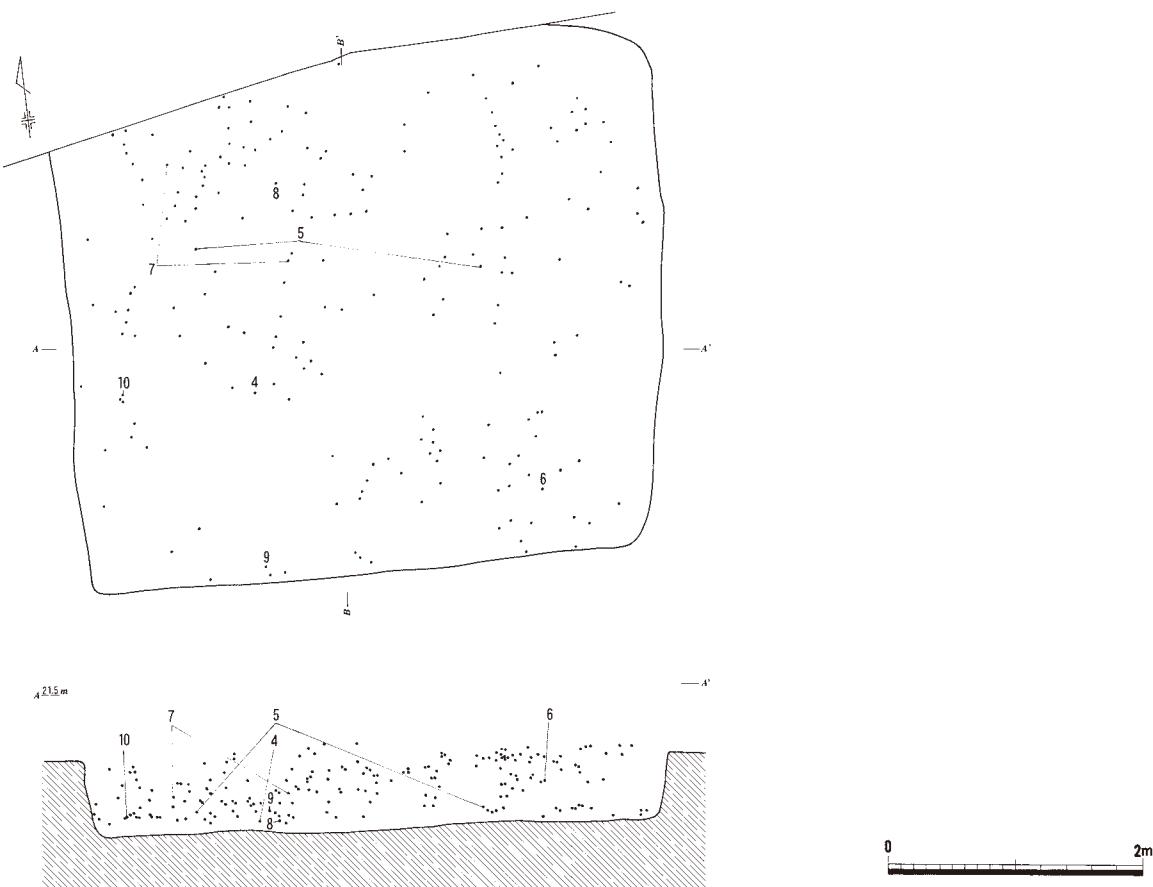
[位置] 調査区北西部

[構造] (平面形) 方形か (規模) 長軸4.6m×短軸4.3m (主軸方位) N-7°-E (壁高) 確認された範

囲で壁に沿って壁溝が巡っているが、南西部壁際で一部溝が立ち上がっていいる。溝の規模は幅19～27cm、深さ5～9cmを測る。(床) 黒褐色土の第9層を埋め戻して平坦な床面とし、東西壁際を除いて踏み固めている。(カマド) 北壁中央部に付設されている。煙道部及び左袖部は調査区域外へ延びてお



第29図 第41号住居跡1 (41H : 1/30、1/60)



第30図 第41号住居跡2 (41H : 1/60)

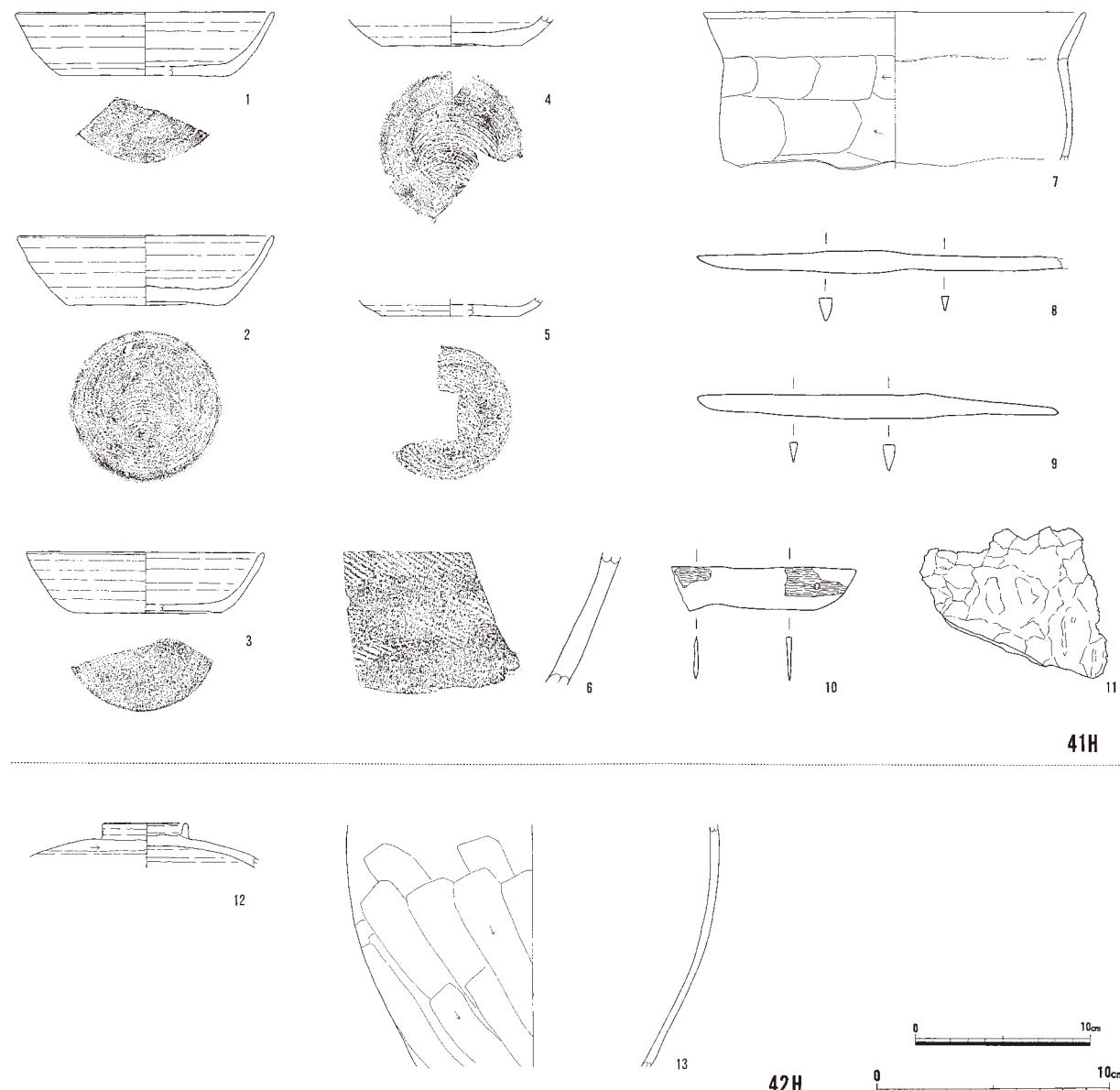
No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	須恵器 壺	14.8	9.7	3.6	灰白色	石英 砂粒 白針状物質	外外面：ロクロナデ 底面：回転ヘラ削り 南北企窓産
2	須恵器 壺	14.6	9.1	3.9	灰色	石英 小礫 砂粒 黒色粒子 白針状物質	外外面：ロクロナデ 底面：回転ヘラ削り 南北企窓産
3	須恵器 壺	13.6	8.5	3.5	灰色	石英 小礫 白針状物質	外外面：ロクロナデ 底面：回転糸切り後回転ヘラ削り 南北企窓産
4	須恵器 壺	—	8.0	(1.7)	灰白色	石英 小礫 砂粒 白針状物質	外外面：ロクロナデ 底面：回転糸切り後回転ヘラ削り 南北企窓産
5	須恵器 壺	—	7.8	(1.0)	灰色	石英 小礫 砂粒 白針状物質	外外面：ロクロナデ 底面：回転糸切り後回転ヘラ削り 南北企窓産
6	須恵器 甕	—	—	(7.5)	灰色	石英 小礫 砂粒 白針状物質	外面：平行叩き目 内面：ナデ 南北企窓産
7	土師器 甕	21.8	—	(8.9)	橙色	石英 雲母 砂粒	外面：ヘラ削り

※ ( ) は現存の寸法

第20表 第41号住居跡 (41H) 出土土器観察表

No.	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	材質	備考
8	刀子	(15.8)	1.0	0.6	鉄	断面逆三角形 柄部欠損
9	刀子	15.5	1.0	0.5	鉄	断面逆三角形
10	刀子か	(8.0)	1.8	0.2	鉄	柄部に木質部付着

第21表 第41号住居跡 (41H) 出土鉄製品観察表



第31図 第41・42号住居跡出土遺物 (41H・42H: 1/3, 1/4)

り、確認された範囲で規模は焚口部から北壁まで46cmで、燃焼部幅は50cmである。袖部は粘土塊を積み上げて構築している。火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。(柱穴) P1・P2は主柱穴と考えられ、深さはそれぞれ18cm・17cmを測る。P1・P2と対となる西部の主柱穴は確認できなかった。P3は支柱穴の可能性があり、深さ12cmを測る。P4は出入口施設に伴うピットと考えられ、深さは15cmを測る。P5は深さ14cmで、性格不明である。

〔覆土〕 黒色土を基調とし、8層に分層される。

〔遺物出土状況〕 1・2は住居跡の掘方土中から出土し、3はP3の覆土中から流れ込むようにして出土し

ている。4・8~10は覆土下層から、5は覆土中層から、6は覆土上層からそれぞれ出土している。

〔時期〕 8世紀後葉

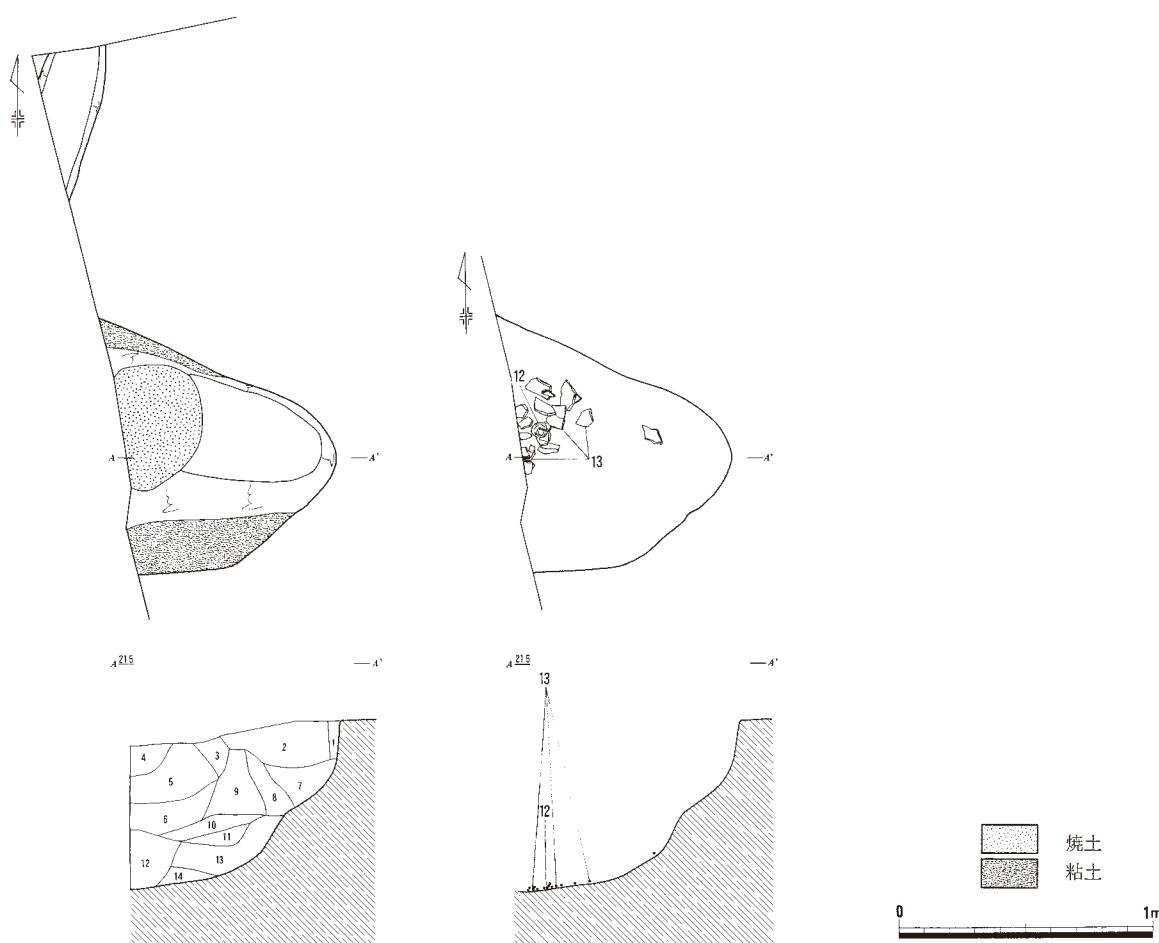
〔備考〕 第11・12号住居跡 (11J・12J) を掘り込んでいる。

#### 第42号住居跡 (42H) (第32図)

〔位置〕 調査区北西部

〔構造〕 東カマドの一部と壁溝の一部のみを確認した。

(壁溝) 確認された溝跡の規模は幅25cmで、深さ42cmを測る。(カマド) 煙道部と火床部のみが確認された。確認された範囲で規模は煙道部から調査区域



第42号住居跡カマド (42H : A-A')

- |        |  |         |  |
|--------|--|---------|--|
| 1 暗褐色土 | ローム粒を少量、粘土粒を微量含む。<br>しまり・粘性普通。                   | 8 黄褐色土  | ロームブロックを多量、焼土粒を微量、粘土粒を少量含む。しまり強。粘性普通。  |
| 2 灰白色土 | ローム粒を微量、粘土ブロックを多量含む。<br>しまり・粘性強。                 | 9 黄褐色土  | ロームブロック・焼土ブロックを中量、粘土粒を微量含む。しまり普通。粘性強。  |
| 3 黒褐色土 | ロームブロックを中量、炭化粒子・粘土ブロックを微量含む。しまり普通。粘性強。           | 10 灰白色土 | ローム粒を微量、焼土ブロックを中量、粘土ブロックを多量含む。しまり・粘性強。 |
| 4 暗褐色土 | ローム粒・炭化粒を微量、粘土ブロックを中量含む。しまり・粘性普通。                | 11 黒褐色土 | 焼土ブロックを中量、炭化粒・粘土ブロックを少量含む。しまり・粘性強い。    |
| 5 灰白色土 | 焼土粒を少量、炭化物を微量、粘土ブロックを多量含む。しまり・粘性強。               | 12 黒褐色土 | 焼土ブロック・粘土ブロックを少量含む。<br>しまり・粘性普通。       |
| 6 黒褐色土 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロックを中量、炭化物を微量含む。<br>しまり普通。粘性強。 | 13 暗褐色土 | ローム粒・炭化粒を少量含む。<br>しまり・粘性普通。            |
| 7 灰白色土 | ロームブロックを少量、焼土粒子を微量、粘土ブロックを中量含む。しまり普通。粘性強。        | 14 黒褐色土 | ローム粒を少量、焼土粒・粘土粒を微量含む。<br>しまり・粘性普通。     |

第32図 第42号住居跡 (42H : 1/30)

No	器種	口径 (cm)	底径・ つまみ径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	須恵器 蓋	—	4.9	(2.6)	灰色	石英 小礫 砂粒 白針状物質	リング状つまみ 天井部回転ヘラ削り ロクロ成形 南北窯産
2	土師器 甕	—	—	(13.8)	橙色	石英 長石 砂粒	外面ヘラ削り

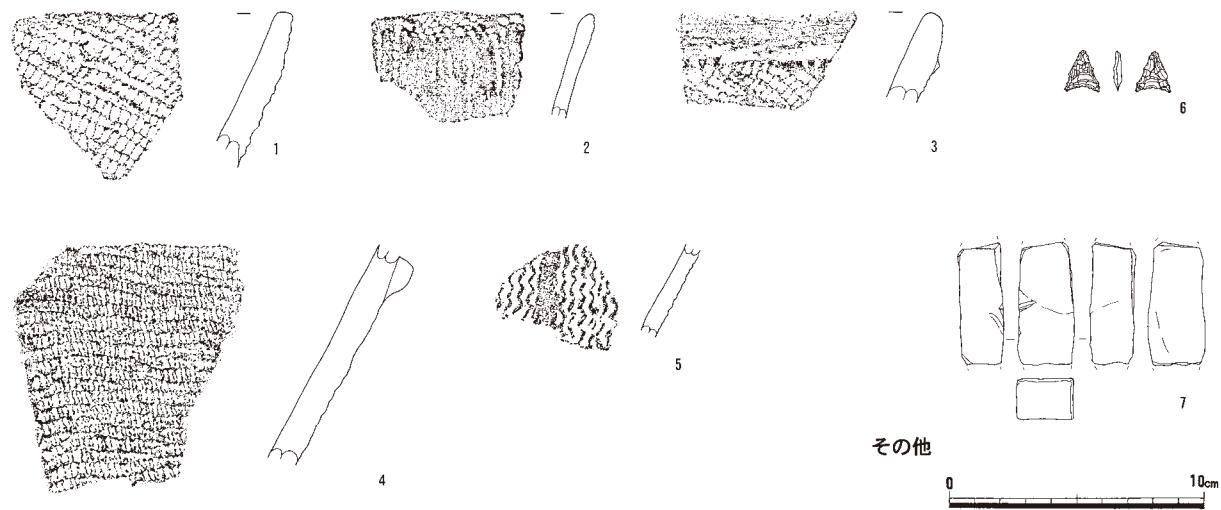
※ ( ) は現存の寸法

第22表 第42号住居跡土器観察表

まで81cmで、燃焼部幅は68cmである。火床面は、火熱を受けて赤変硬化している。  
[遺物出土状況] カマド内から12・13が出土している。

[時期] 9世紀代か

[備考] 第12号住居跡（12J）を掘り込んでいる。



第33図 遺構外出土遺物（1/30）

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
1	縄文土器 深鉢	—	—	(6.1)	黄褐色	石英 砂粒 植物繊維	単節縄文RL
2	縄文土器 深鉢	—	—	(4.1)	黒褐色	石英 雲母 小礫 砂粒 植物繊維	口縁部のみ縄文施文
3	縄文土器 深鉢	—	—	(3.5)	黄褐色	石英 小礫 砂粒	口縁部無文、胴部単節縄文RL、 口縁部と胴部の間を隆起
4	縄文土器 深鉢	—	—	(8.5)	橙色	石英 砂粒 白色粒子	単節縄文
5	縄文土器 深鉢	—	—	(3.7)	橙色	石英 雲母 砂粒	山形の押型文

※（ ）は現存の寸法

第23表 遺構外出土土器観察表

No.	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調	胎土	備考
6	石鎌	1.6	1.4	0.4	1.3	チャート	欠損部なし
7	砥石	(4.8)	1.6	2.2	29.8	砂岩	砥面一面

※（ ）は現存の寸法

第24表 遺構外出土石器観察表

## 第4章 羽沢前遺跡第6地点

### 第1節 遺跡の概要

#### 1. 遺跡の立地と調査地点の概要

羽沢前遺跡は、市域の西部に位置する。遺跡北側には谷津が北東へ延び、当遺跡は谷頭に該当する。谷津の対岸には縄文時代中期を中心とした集落が形成された羽沢遺跡が立地する。

これまでに5地点の調査が行われたが、中近世の溝1条とピットのみが確認されており、古代以前の集落等は確認されておらず、第6地点で初めての縄文時代遺構が確認された。

#### 2. 発掘調査の経過

本地点は分譲住宅建設に伴い、令和3年12月16日に試掘調査を実施した。その結果、縄文時代早期の炉穴1基（1 FP）が検出された。

検出された遺構の深度から、工事の掘削等による影響が遺構に及び、十分な保護層を確保できない見込みであ

った。そのため、記録保存を目的とした発掘調査を令和3年12月17日に実施した。

### 第2節 縄文時代の遺構と遺物

#### 第1号炉穴（1 FP）（第35図）

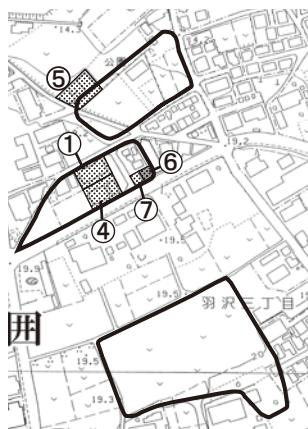
[位置] 調査区中央部

[構造] (平面形) 楕円形 (規模) 長径129cm×短径57cmである。(主軸方位) N-28°-W (火焚部) 遺構確認面から深さ14cmを測る。底面は段を有し、底面の北部と南部は火熱を受けて赤変硬化している。

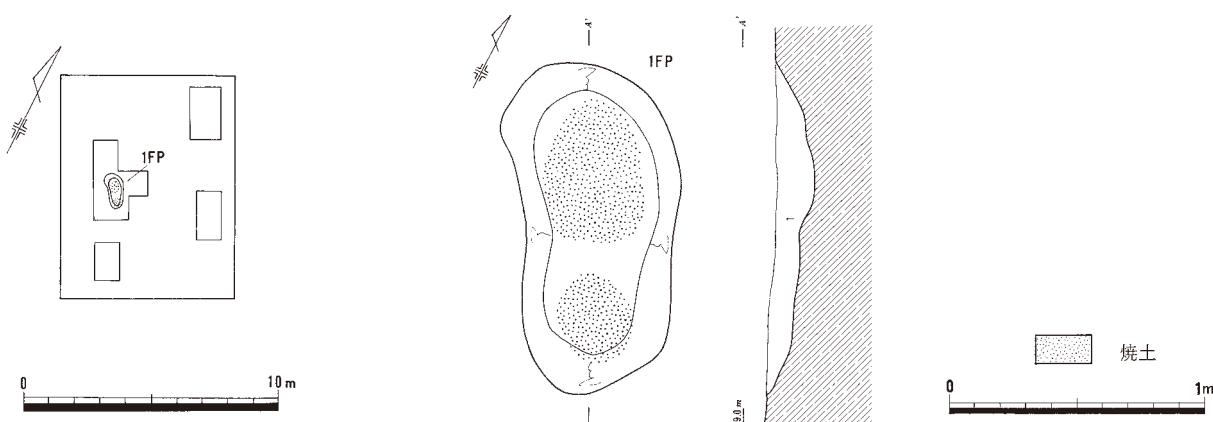
[覆土] 褐色土を基調とした単一層である。

[遺物出土状況] 出土遺物は皆無であった。

[時期] 縄文時代早期



第34図 羽沢前遺跡第6地点 (1/5000)



第1号炉穴土層解説 (1 FP : A-A')

1 褐色土 ローム粒多量・焼土ブロック・炭化粒を少量含む。  
しまり・粘性やや強い。

第35図 羽沢前遺跡第6地点遺構配置図 (1/300) 及び第1号炉穴 (1 FP : 1/30)

## 第5章 神明遺跡第29地点

### 第1節 遺跡の概要

#### 1. 遺跡の立地と調査地点の概要

神明遺跡は、南側に柳瀬川を臨んだ武蔵野台地縁辺部に立地する。柳瀬川流域の台地縁辺部には遺跡が連なるように位置しており、神明遺跡の北東側に觀音前遺跡、南西側に東台遺跡とそれぞれ隣接している。

これまでの調査では、中世以降の溝跡と平安時代以降の方形竪穴遺構が検出されるのみで、集落の詳細な様相は不明であった。しかし、本地点で初めての縄文時代の炉穴が検出されたことにより、同時代の集落が周辺に広がっている可能性を確認した。

#### 2. 発掘調査の経過

本地点は宅地造成・分譲住宅建設に伴い、平成29年6月26日・27日に試掘調査を実施した。その結果、縄文時代早期の炉穴1基（1 FP）が検出された。

検出された遺構の深度から、工事の掘削等による影響が遺構に及び、十分な保護層を確保できない見込みであった。そのため、記録保存を目的とした発掘調査を平成29年6月28日に実施した。

### 第2節 縄文時代の遺構と遺物

#### 第1号炉穴（1 FP）（第37図）

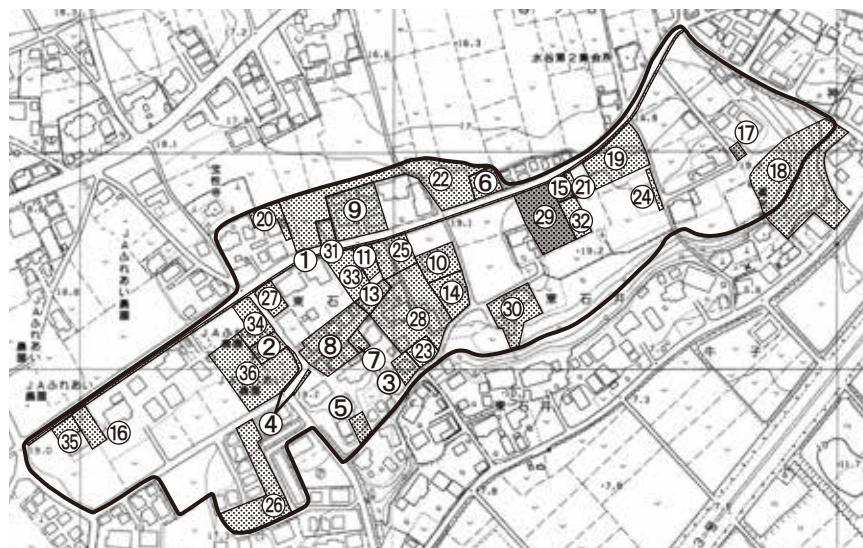
[位置] 調査区東部

[構造] (平面形) 楕円形 (規模) 遺構東部が調査区域外へ延びている為、確認できた範囲で長径84cm以上、短径56cmである。(主軸方位) N-61°-E (火焚部) 遺構確認面から深さ11cmを測る。底面は平坦で、底面の東部と西部が火熱を受けて赤変硬化している。

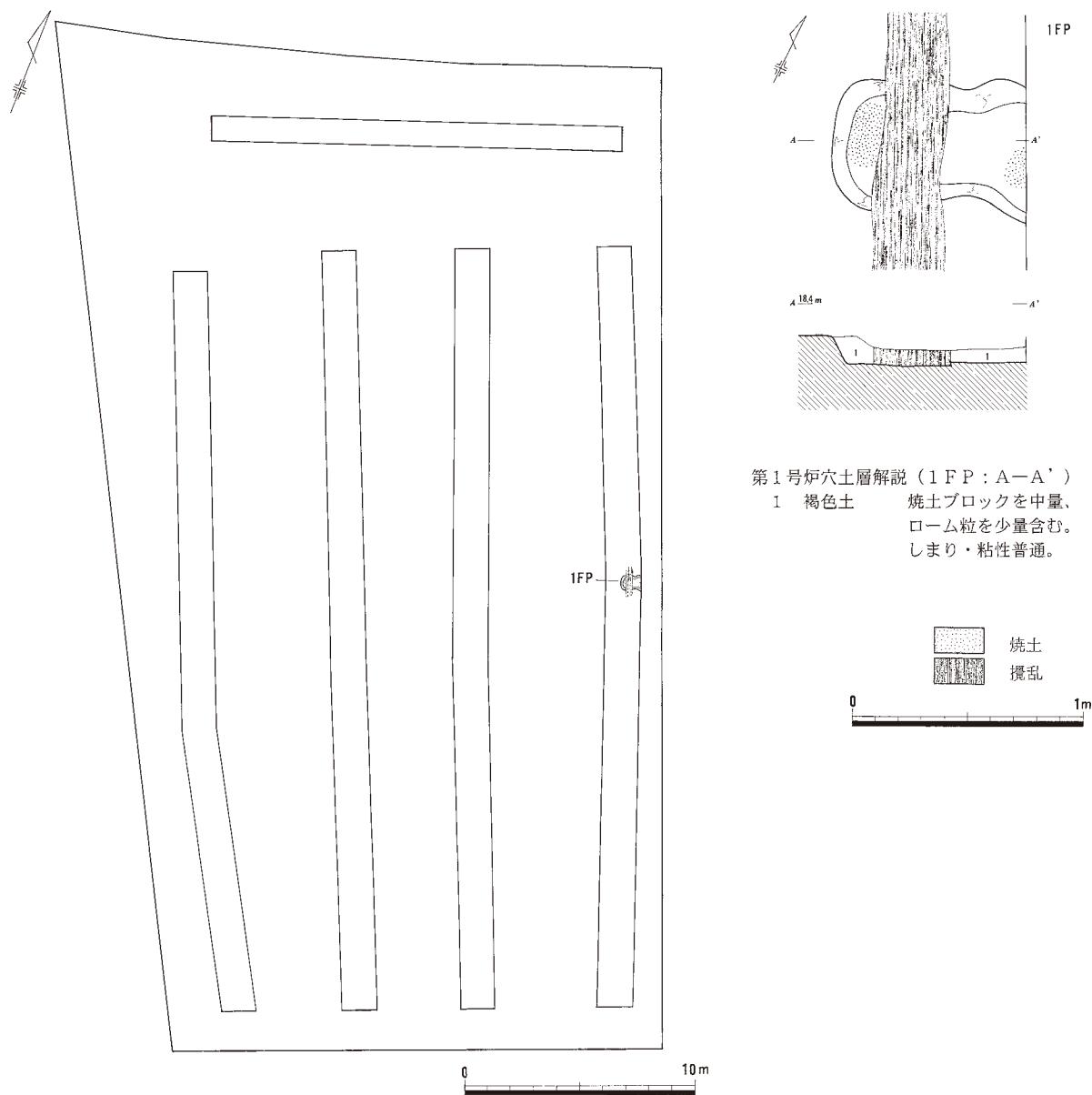
[覆土] 褐色土を基調とした単一層である。

[遺物出土状況] 縄文土器片が僅かに出土しているが、細片の為、図化できなかった。

[時期] 縄文時代早期



第36図 神明遺跡第29地点 (1/5000)



第37図 神明遺跡第29地点遺構配置図 (1/300) 及び第1号炉穴 (1 FP : 1/30)

## 第6章 山室遺跡第24地点

### 第1節 遺跡の概要

#### 1. 遺跡の立地と調査地点の概要

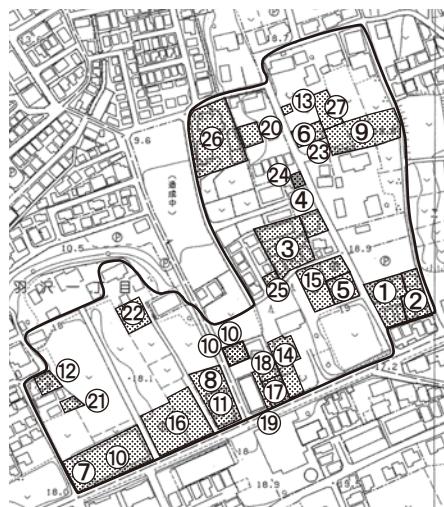
山室遺跡は武藏野台地縁辺部に立地し、東側に荒川低地、西側に山室排水路を有する谷津を臨んだ舌状台地上の基部に立地している。北側の舌状台地先端部には縄文時代早期の炉穴が複数確認される大谷遺跡が立地する。また、当遺跡南部は平塚遺跡と隣接し、東側の荒川低地に向かう斜面地には山室谷遺跡が立地している。

これまでに縄文時代早期を中心とした集落が調査されており、本地点検出の炉穴を含め、当遺跡内には縄文時代早期の集落が広がっているものと考えられる。

#### 2. 発掘調査の経過

本地点は個人専用住宅の建設に伴い、令和2年4月9日に試掘調査を実施した。その結果、縄文時代早期の炉穴1基（5 FP）が検出された。

検出された遺構の深度から、工事の掘削等による影響が遺構に及び、十分な保護層を確保できない見込みであった。そのため、記録保存を目的とした発掘調査を令和2年4月10日に実施した。



第38図 山室遺跡第24地点 (1/5000)

### 第2節 縄文時代の遺構と遺物

#### 第5号炉穴 (5 FP) (第39図)

[位置] 調査区南西部

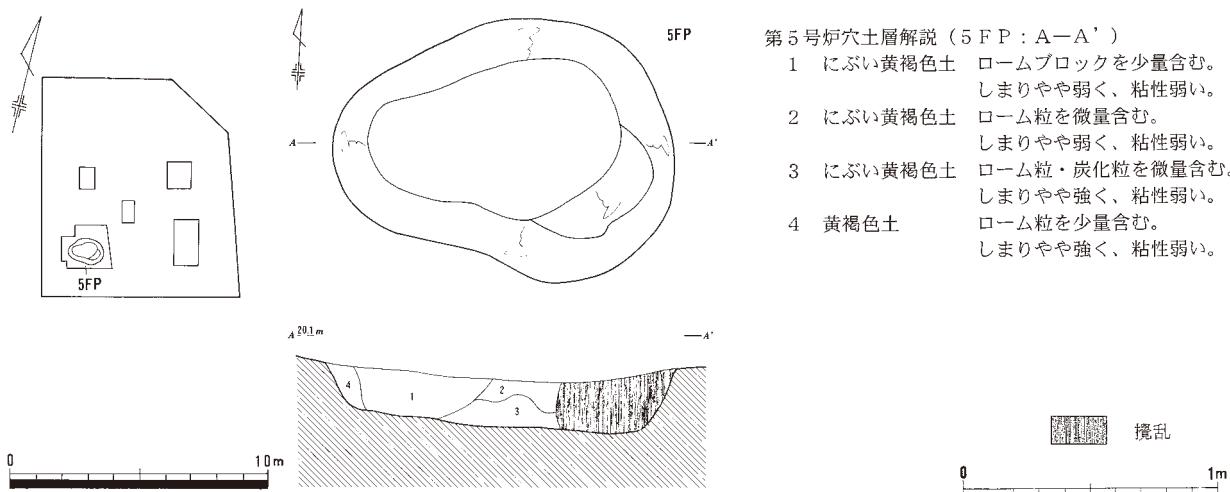
[構造] (平面形) 楕円形 (規模) 長径133cm × 短径101cmである。(主軸方位) N - 83° - E (火焚部) 遺構確認面から深さ24cmを測る。底面は僅かに火熱を受けて赤変している。

[覆土] にぶい黄褐色土を基調とし、4層に分層される。

[遺物出土状況] 縄文土器片が僅かに出土しているが、細片の為図化できなかった。

[時期] 縄文時代早期

[備考] 底面に僅かに赤変が認められた為、炉穴とした。



第39図 山室遺跡第24地点遺構配置図 (1/300) 及び第5号炉穴 (5 FP : 1/30)

## 写真図版1 氷川前遺跡第66地点



[1] 氷川前遺跡第66地点試掘調査風景



[2] 第74号土坑完掘状況 (74JD)



[3] 第29号住居跡完掘状況 (29 Y)



[4] 第30号住居跡完掘状況 (30 Y)



[5] 第33号住居跡遺物出土状況 (33 Y)



[6] 第33号住居跡完掘状況 (33 Y)



[7] 第34号住居跡遺物出土状況 (34 Y)



[8] 第34号住居跡火皿式炉跡検出状況 (34 Y)

## 写真図版2 氷川前遺跡第66地点



[1] 第34号住居跡完掘状況 (34Y)



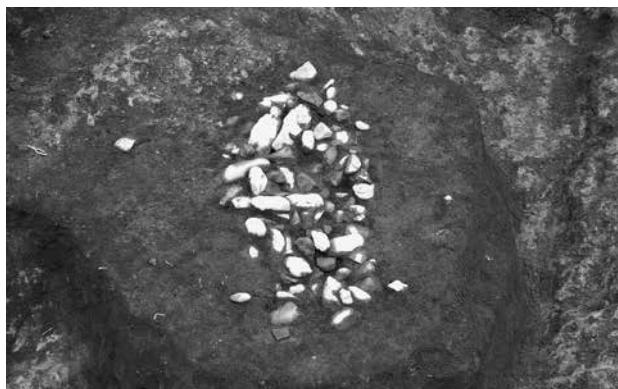
[2] 第36号住居跡遺物出土状況 (36Y)



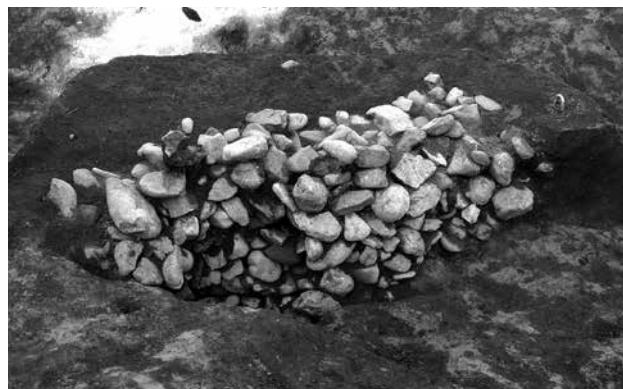
[3] 第63号土坑遺物出土状況1 (63HD)



[4] 第63号土坑遺物出土状況2 (63HD)



[5] 第42・43号溝跡1号集石検出状況 (42M・43M)



[6] 第42・43号溝跡1号集石堆積状況 (42M・43M)



[7] 第42・43号溝跡2号集石検出状況 (42M・43M)



[8] 氷川前遺跡第66地点調査終了状況

### 写真図版3 氷川前遺跡第66地点



[1] 第34号住居跡出土遺物 (34 Y) (No. 2)



[2] 第34号住居跡出土遺物 (34 Y) (No. 1)



[3] 第34号住居跡出土遺物 (34 Y) (No. 3)



[4] 第34号住居跡出土遺物 (34 Y) (No. 6)



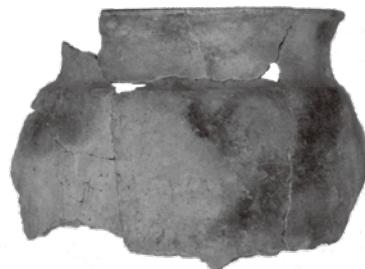
[5] 第58号土坑出土遺物 (58 H D) (No. 1)



[6] 第58号土坑出土遺物 (58 H D) (No. 2)



[7] 第63号土坑出土遺物 (63 H D) (No. 3)



[8] 第63号土坑出土遺物 (63 H D) (No. 6)

## 写真図版4 氷川前遺跡第66地点



[1] 第63号土坑出土遺物 (63 H D) (No.7)



[2] 第48号住居跡出土遺物 (48 H) (No.1)



[3] 第43号溝跡出土遺物 (43 M) (No.6)



[4] 第43号溝跡出土遺物 (43 M) (No.10・No.1)



[5] 第43号溝跡出土遺物 (43 M) (No.2・No.3)



[6] 第43号溝跡出土遺物 (43 M) (No.11・No.12・No.7)



[7] 第43号溝跡出土遺物 (表) (43 M) (No.9・No.8)



[8] 第43号溝跡出土遺物 (裏) (43 M) (No.9・No.8)

## 写真図版5 谷津遺跡第42地点



〔1〕第11号住居跡遺物出土状況（11 J）



〔2〕第11号住居跡完掘状況（11 J）



〔3〕第12号住居跡完掘状況（12 J）



〔4〕第13号集石土層断面状況（13JS）



〔5〕第13号集石検出状況（13JS）



〔6〕第41号住居跡遺物出土状況（41 H）



〔7〕第41号住居跡完掘状況（41 H）



〔8〕谷津遺跡第42地点調査終了状況

## 写真図版6

谷津遺跡第42地点 神明遺跡第29地点  
羽沢前遺跡第6地点 山室遺跡第24地点



〔1〕 谷津遺跡第42地点第11・12号住居跡出土遺物 (11 J・12 J)



〔2〕 谷津遺跡第42地点第41号住居跡出土遺物 (41 H) (No.2)



〔3〕 谷津遺跡第42地点第41号住居跡出土遺物 (41 H) (No.3)



〔4〕 谷津遺跡第42地点第41号住居跡出土遺物 (41 H) (No.7)



〔5〕 谷津遺跡第42地点第41号住居跡出土遺物 (41 H) (No.10)



〔6〕 羽沢前遺跡第6地点検出の炉穴完掘状況 (1 FP)



〔7〕 神明遺跡第29地点検出の炉穴完掘状況 (1 FP)



〔8〕 山室遺跡第24地点検出の炉穴完掘状況 (5 FP)

## 報告書抄録



富士見市文化財報告 第74集  
市内遺跡発掘調査 XV

発行 令和4年3月31日

編集発行 富士見市教育委員会  
〒354-0021 埼玉県富士見市大字鶴馬1873-1

印 刷 株式会社 白峰社  
〒170-0013 東京都豊島区東池袋5-49-6

